

 資料

1 アンケート調査結果

(1) 調査の目的

第6期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定にあたり、日常生活圏域ごとにおける被保険者の心身の状況、その置かれている環境、その他の事情を正確に把握する必要があるため、本調査を実施しました。

(2) 調査設計

調査対象者 : 市内在住の平成26年6月1日時点における以下の対象者
一般高齢者調査…65歳以上の自立高齢者のうち2,000人を無作為抽出
要支援・要介護認定者調査…要支援・要介護認定を受けている65歳以上の方のうち、2,000人を無作為抽出

調査期間 : 平成26年7月1日(火)～平成26年7月18日(金)まで

調査方法 : 調査票による本人記入方式(本人が記入できない場合は家族または施設職員等)
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

(3) 回収結果

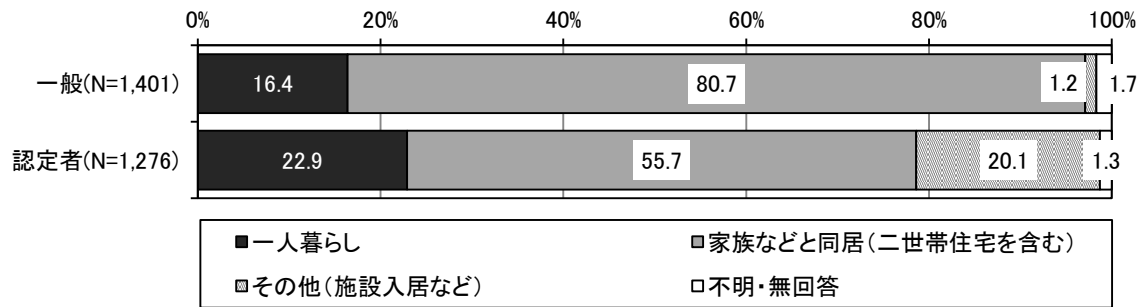
	配布数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者	2,000 件	1,401 件	70.0%
要支援・要介護認定者	2,000 件	1,276 件	63.8%

【1】家族や生活の状況について

① 家族構成

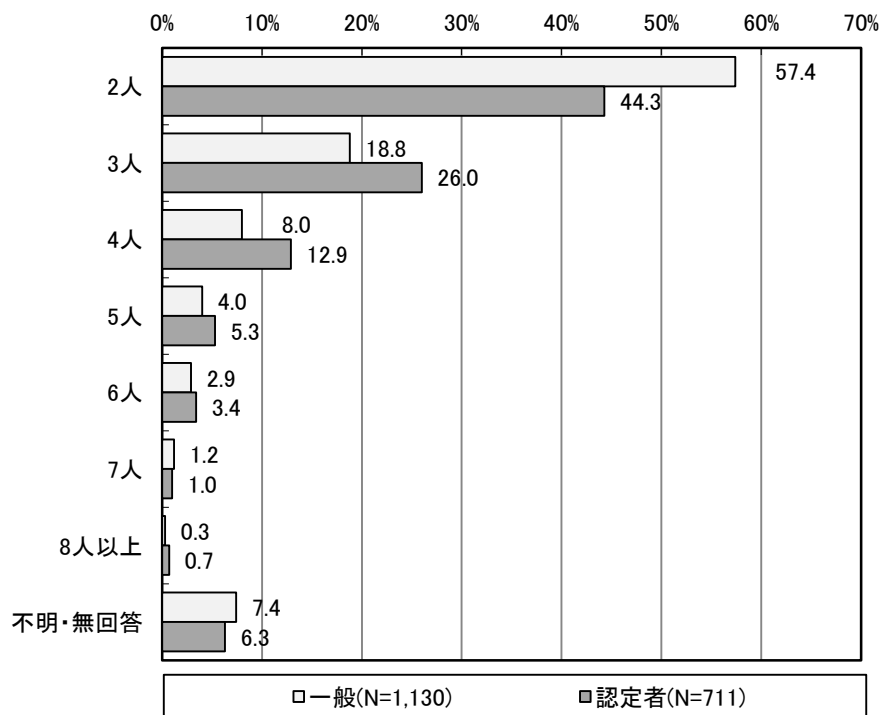
家族構成についてみると、「家族などと同居（二世帯住宅を含む）」が一般高齢者、要介護認定者でそれぞれ 80.7%、55.7%と最も高く、次いで「一人暮らし」がそれぞれ 16.4%、22.9%となっています。

■ 家族構成



家族などと同居していると回答した人に、同居家族の人数をたずねると、「2人」が一般高齢者、要介護認定者でそれぞれ 57.4%、44.3%と最も高く、次いで「3人」がそれぞれ 18.8%、26.0%、「4人」がそれぞれ 8.0%、12.9%となっています。

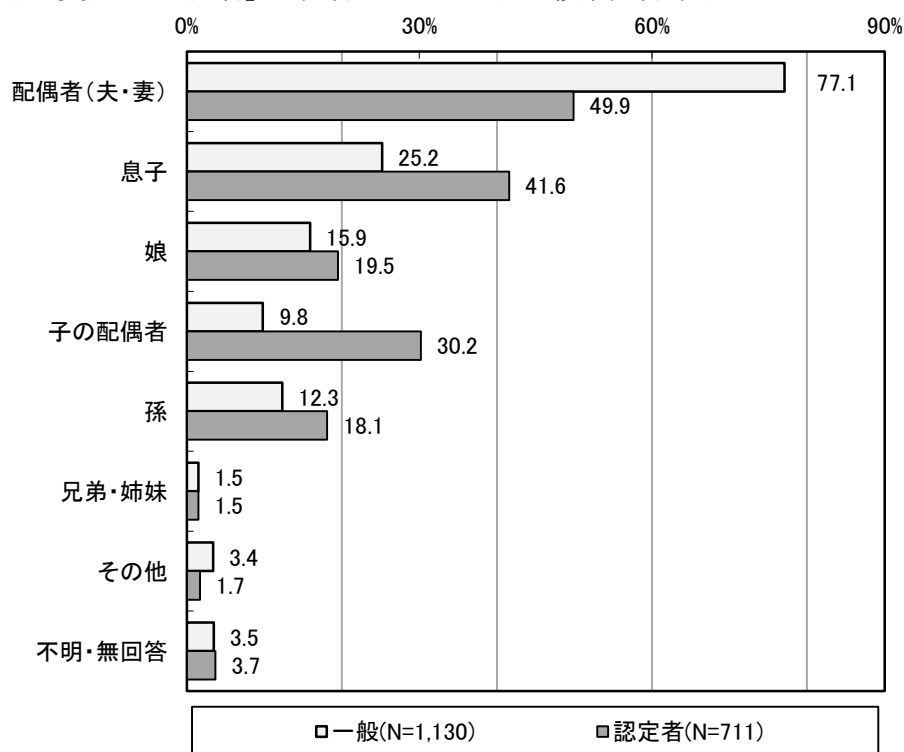
■ 世帯人員（「家族などと同居」と回答した人のみ）



グラフ中の「N」は基数で、その質問に対する該当者数を表す。以下同じ。

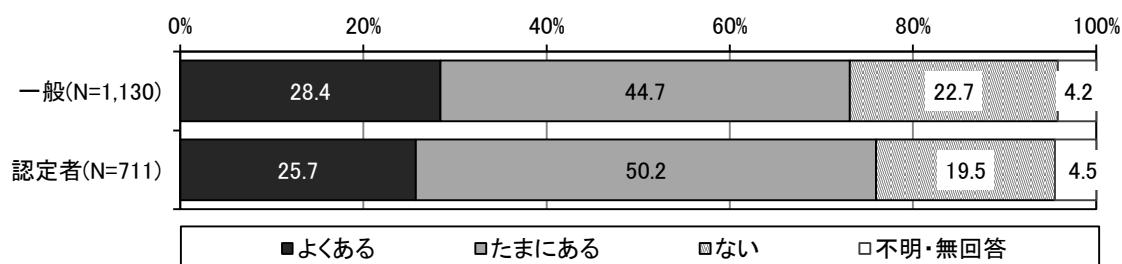
家族などと同居していると回答した人に、同居の家族についてたずねると、一般高齢者では「配偶者（夫・妻）」が77.1%と最も高く、次いで「息子」が25.2%、「娘」が15.9%となっています。要介護認定者では「配偶者（夫・妻）」が49.9%と最も高く、次いで「息子」が41.6%、「子の配偶者」が30.2%となっています。

■ 同居家族（「家族などと同居」と回答した人のみ）＜複数回答あり＞



家族などと同居していると回答した人に、日中に一人になる可能性についてたずねると、一般高齢者では「たまにある」が44.7%と最も高く、次いで「よくある」が28.4%、「ない」が22.7%となっています。要介護認定者では「たまにある」が50.2%と最も高く、「よくある」が25.7%、「ない」が19.5%となっています。

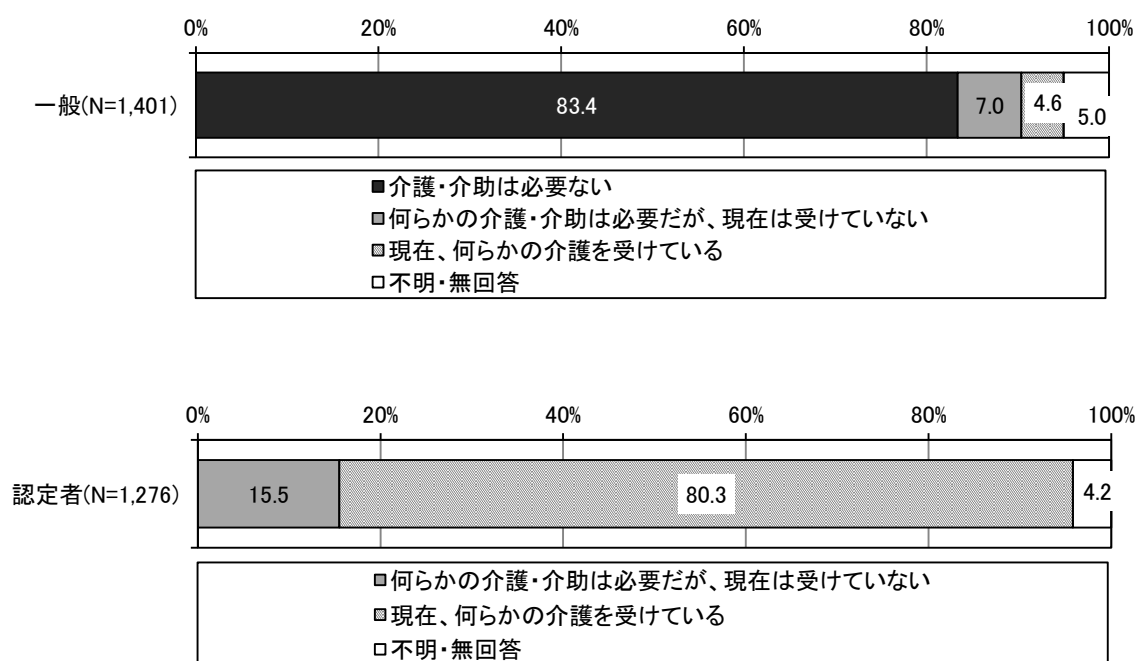
■ 日中一人になること（「家族などと同居」と回答した人のみ）



② 介護が必要な高齢者の状況

介護・介助の必要性についてみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が83.4%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.0%「現在、何らかの介護を受けている」が4.6%となっています。要介護認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が80.3%と最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が15.5%となっています。

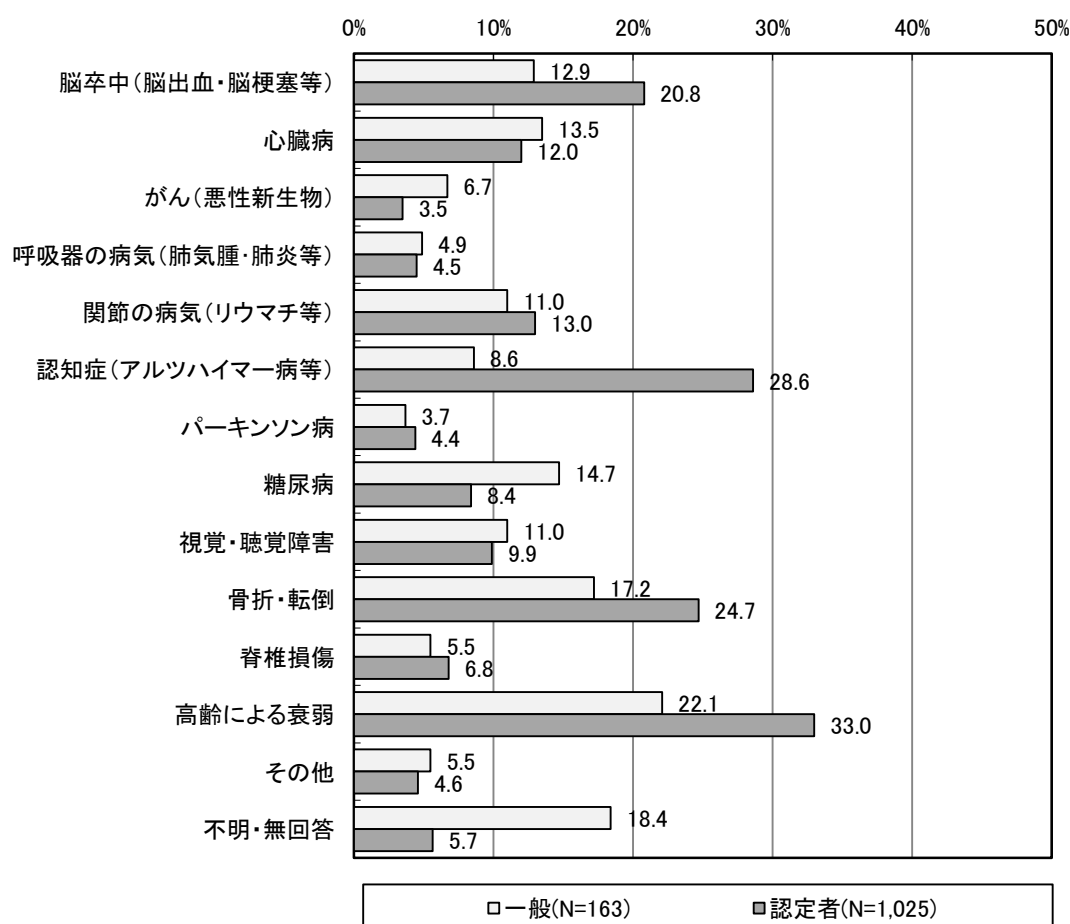
■ 介護・介助の必要性



「何らかの介護・介助は必要だが現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方に、介護・介助が必要になった原因についてたずねると、一般高齢者では「高齢による衰弱」が22.1%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.2%、「糖尿病」が14.7%となっています。要介護認定者では「高齢による衰弱」が33.0%と最も高く、次いで「認知症（アルツハイマー病等）」が28.6%、「骨折・転倒」が24.7%となっています。

■ 介護・介助が必要になった原因

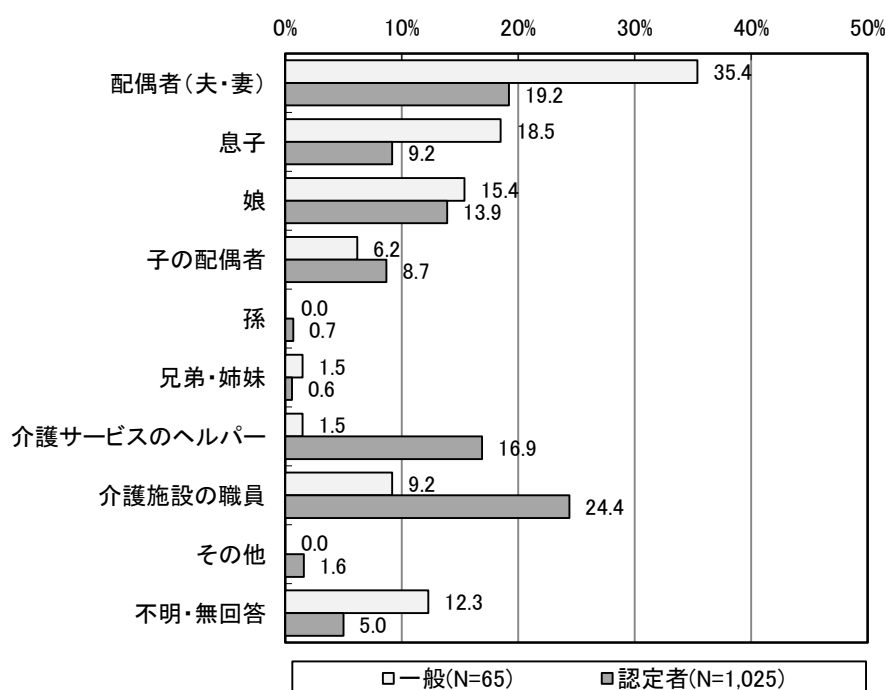
（「何らかの介護・介助は必要だが現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方のみ）＜複数回答あり＞



③ 主な介護者の状況

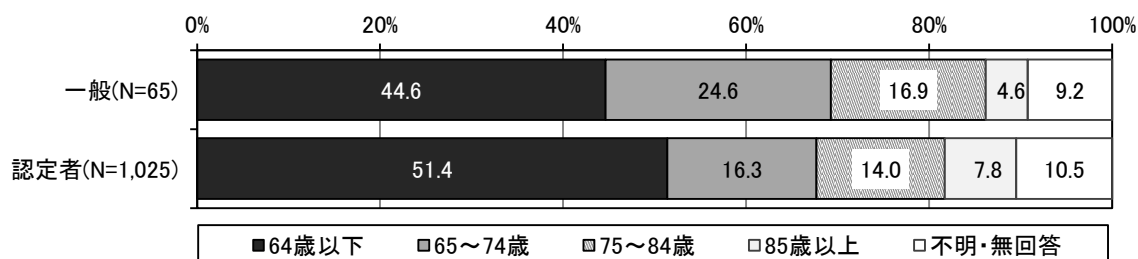
「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方に、主な介護者についてたずねると、一般高齢者では「配偶者（夫・妻）」が35.4%と最も高く、次いで「息子」が18.5%、「娘」が15.4%となっています。要介護認定者では「介護施設の職員」が24.4%と最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が19.2%、「介護サービスのヘルパー」が16.9%となっています。

■ 主な介護・介助者（「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人のみ）



「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方に、介護者の年齢についてたずねると、一般高齢者では「64歳以下」が44.6%と最も高く、次いで「65～74歳」が24.6%、「75～84歳」が16.9%となっています。要介護認定者では「64歳以下」が51.4%と最も高く、次いで「65～74歳」が16.3%、「75～84歳」が14.0%となっています。

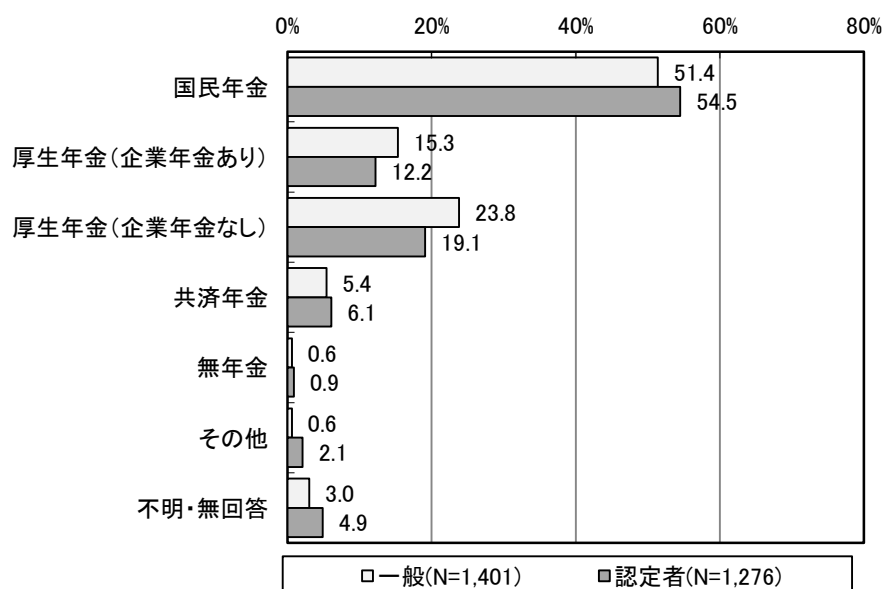
■ 主な介護・介助者の年齢（「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人のみ）



④ 経済的な状況

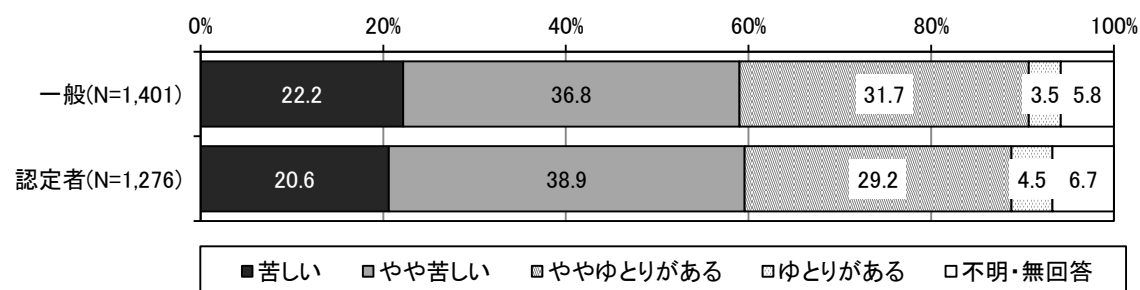
年金の種類についてみると、一般高齢者では「国民年金」が51.4%と最も高く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」が23.8%、「厚生年金（企業年金あり）」が15.3%となっています。要介護認定者では「国民年金」が54.5%と最も高く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」が19.1%、「厚生年金（企業年金あり）」が12.2%となっています。

■ 年金の種類



経済状況についてみると、一般高齢者では「やや苦しい」が36.8%と最も高く、次いで「ややゆとりがある」が31.7%となっています。要介護認定者では「やや苦しい」が38.9%と最も高く、次いで「ややゆとりがある」が29.2%となっています。

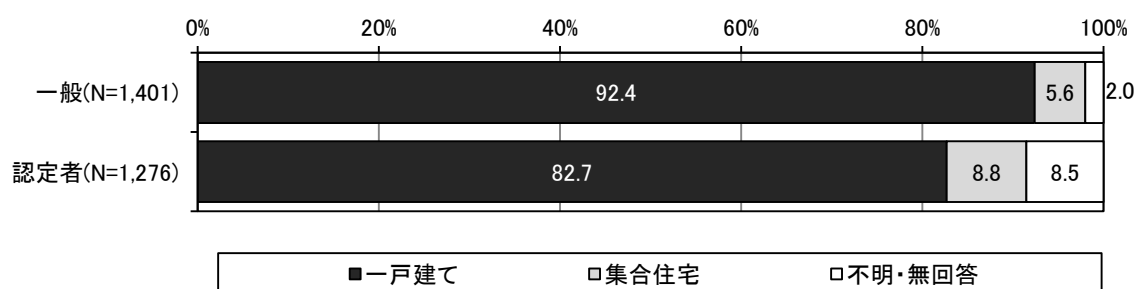
■ 経済的にみた暮らしの状況



⑤ 住まいの状況

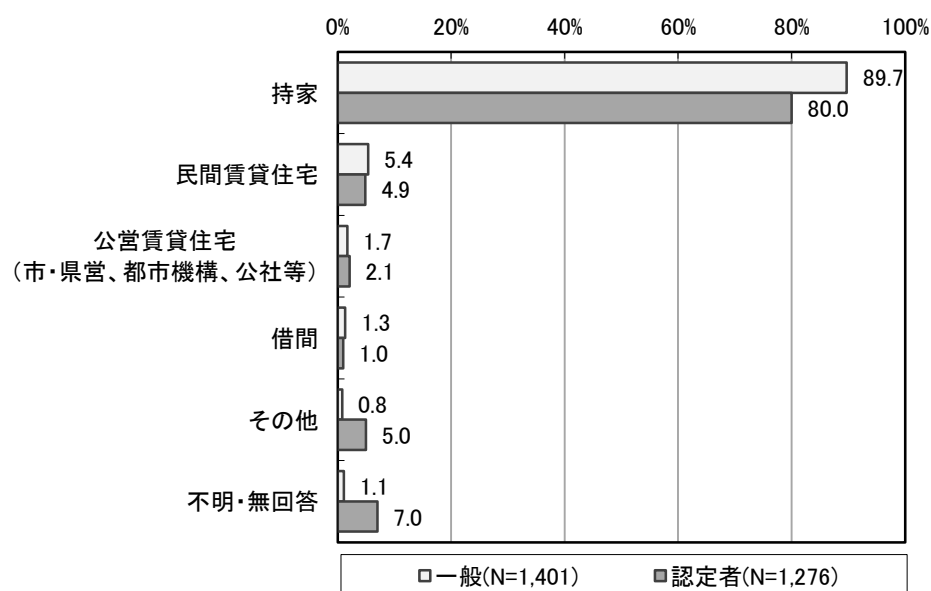
住居形態についてみると、一般高齢者では「一戸建て」が92.4%、「集合住宅」が5.6%となっています。要介護認定者では「一戸建て」が82.7%、「集合住宅」が8.8%となっています。

■ 住まいの種類



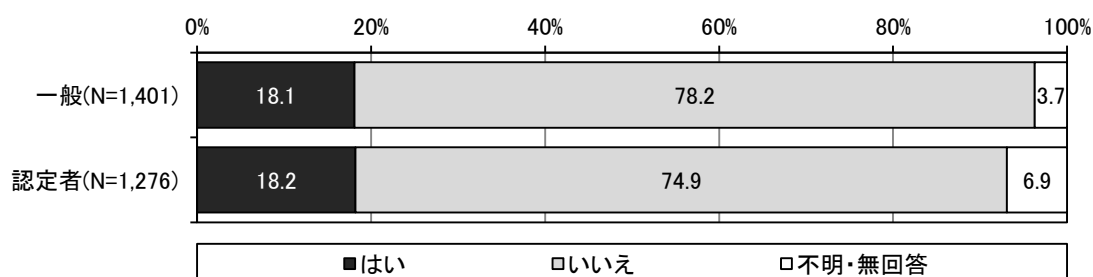
賃貸状況についてみると、一般高齢者では「持家」が89.7%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅」が5.4%となっています。要介護認定者では「持家」が80.0%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅」が4.9%となっています。

■ 住まいの所有形態



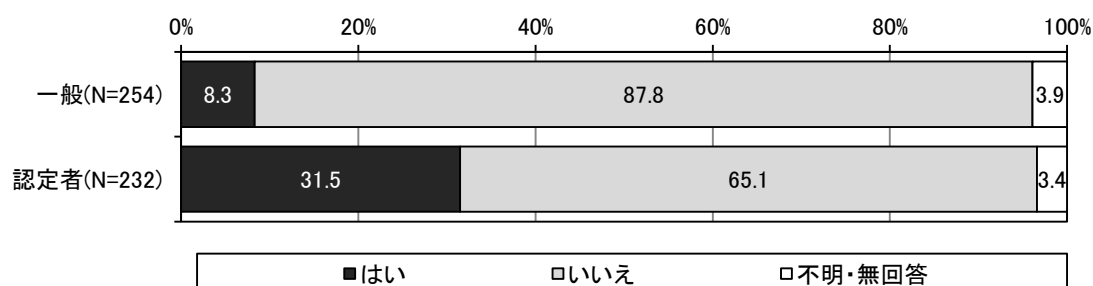
居室の階数が2階以上にあるかについてみると、一般高齢者では「いいえ」が78.2%、「はい」が18.1%となっています。要介護認定者では「いいえ」が74.9%、「はい」が18.2%となっています。

■ 居室の階数



居室の階数が2階以上と回答した人にエレベーターの設置についてたずねると、一般高齢者では「いいえ」が87.8%、「はい」が8.3%となっています。要介護認定者では「いいえ」が65.1%、「はい」が31.5%となっています。

■ エレベーターの設置の有無（「2階以上」と回答した人のみ）



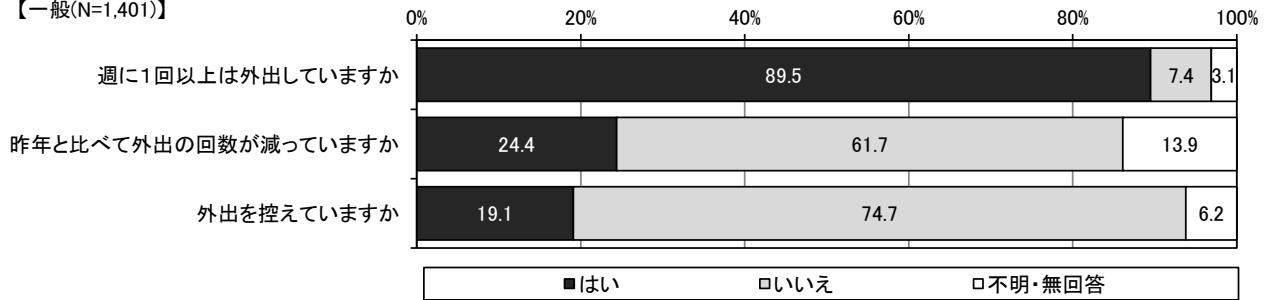
【2】外出について

外出に関する状況についてみると、『週に1回以上は外出していますか』の設問に対し、一般高齢者は「はい」が89.5%となっていますが、要介護認定者では60.3%となっています。

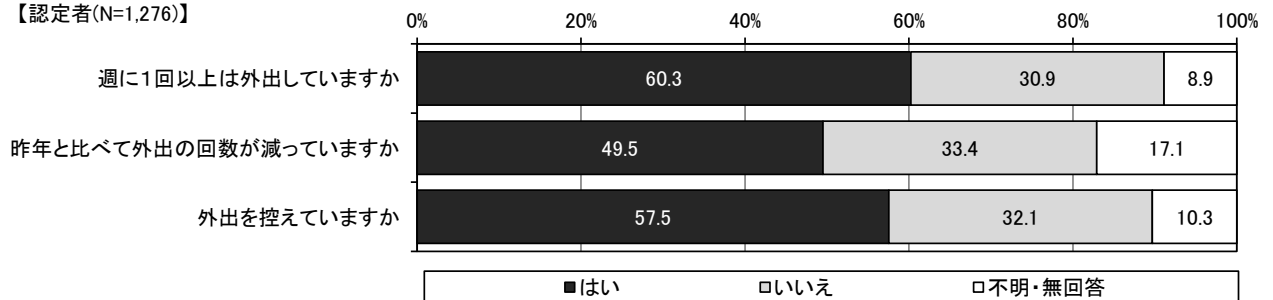
『昨年と比べて外出の回数が減っていますか』、『外出を控えていますか』の設問については、一般高齢者では「いいえ」が「はい」を上回っていますが、要介護認定者では「はい」が「いいえ」を上回っています。

■ 外出の状況

【一般(N=1,401)】

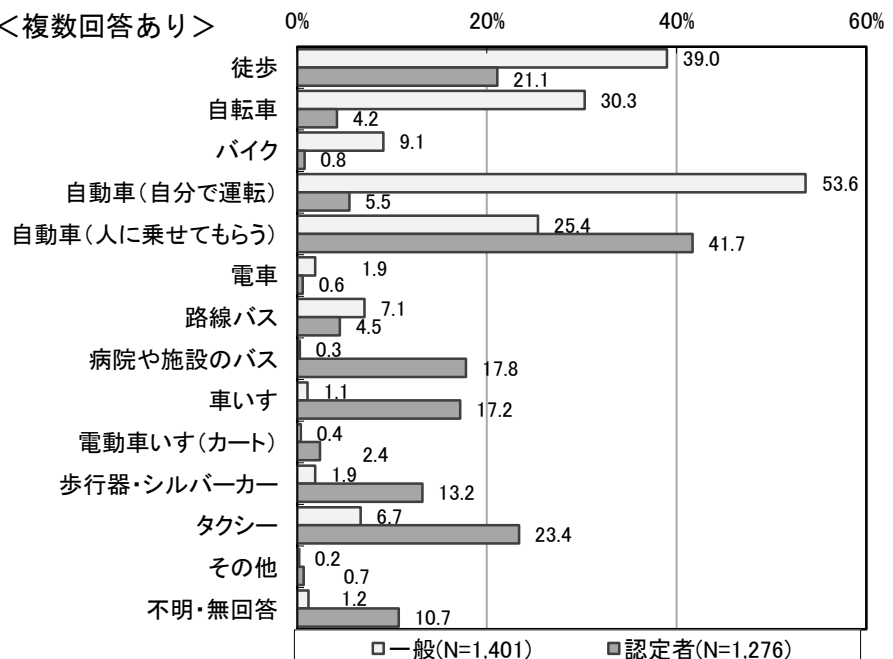


【認定者(N=1,276)】



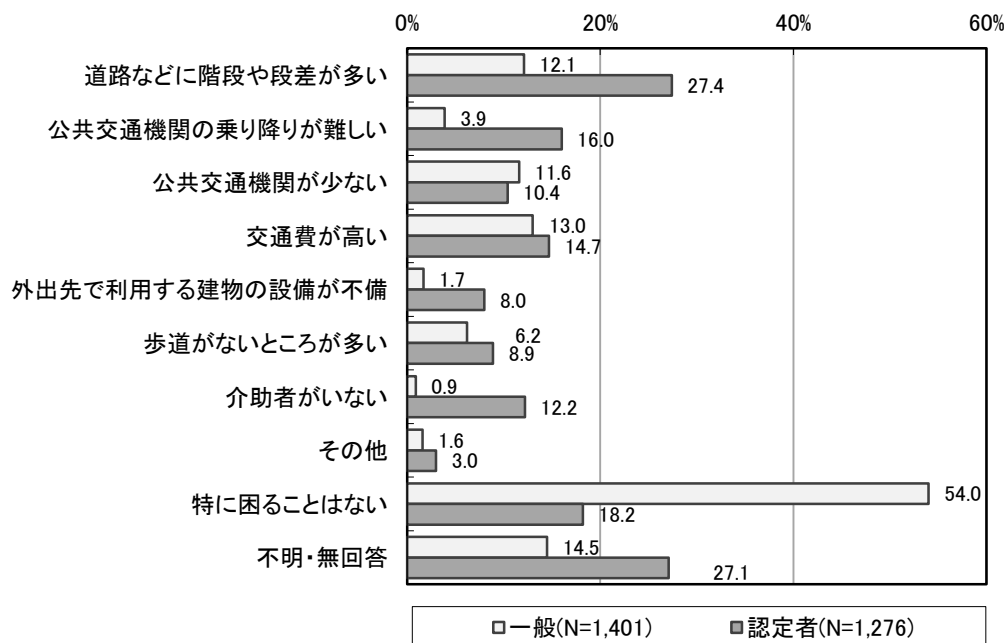
外出する際の移動手段についてみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」が53.6%と最も高く、次いで「徒歩」が39.0%、「自転車」が30.3%となっています。要介護認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が41.7%と最も高く、次いで「タクシー」が23.4%、「徒歩」が21.1%となっています。

■ 外出の際の移動手段＜複数回答あり＞



外出する際の困ることについてみると、一般高齢者では「特に困ることはない」が54.0%と最も高くなっていますが、要介護認定者では「道路などに階段や段差が多い」が27.4%と最も高くなっています。

■ 外出の際に困ること＜複数回答あり＞

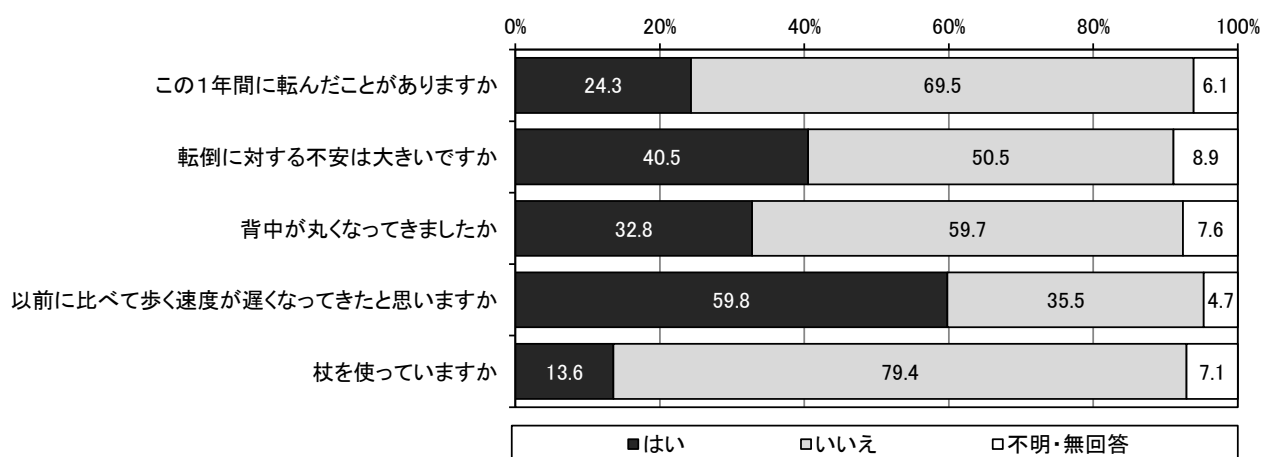


【3】転倒について

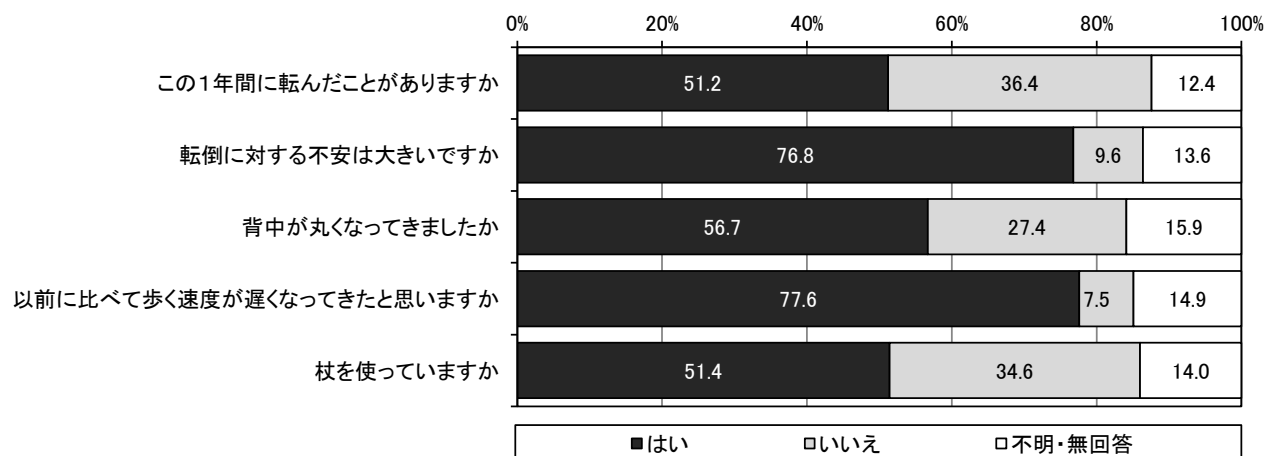
転倒に関する状況についてみると、一般高齢者では『以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか』で「はい」が59.8%、『転倒に対する不安は大きいですか』で「はい」が40.5%と高くなっています。要介護認定者については、一般高齢者に比べると認定を受けていることもあり、全ての間で「はい」の割合が高くなっています。

■ 歩行や転倒の状況

【一般(N=1,401)】



【認定者(N=1,276)】



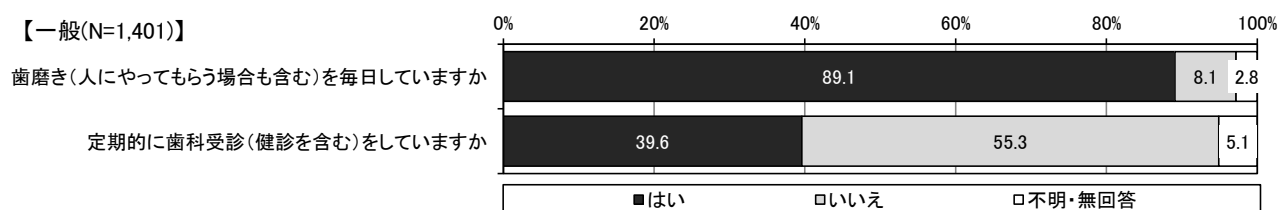
【4】口腔・栄養について

口腔についてみると、『歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか』で「はい」と答えた方は、一般高齢者で 89.1%、要介護認定者で 78.6%となっています。

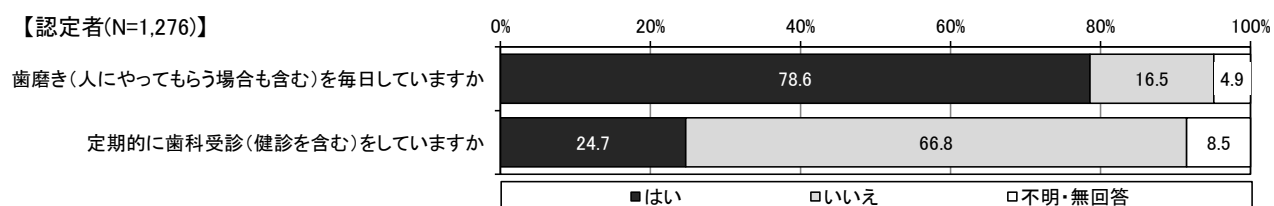
『定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか』で「はい」と答えた方は、一般高齢者で 39.6%、要介護認定者で 24.7%となっています。

■ 口腔・栄養の状況

【一般(N=1,401)】



【認定者(N=1,276)】



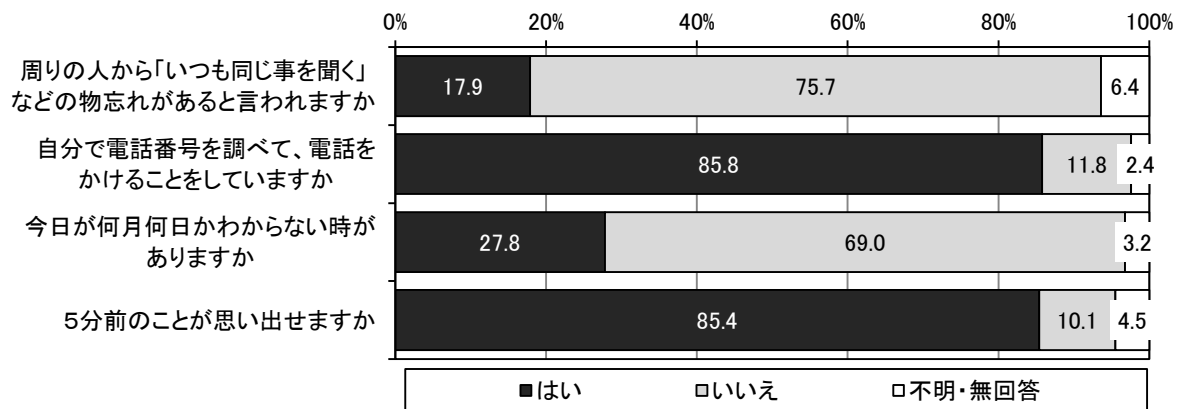
【5】物忘れについて

① 物忘れ

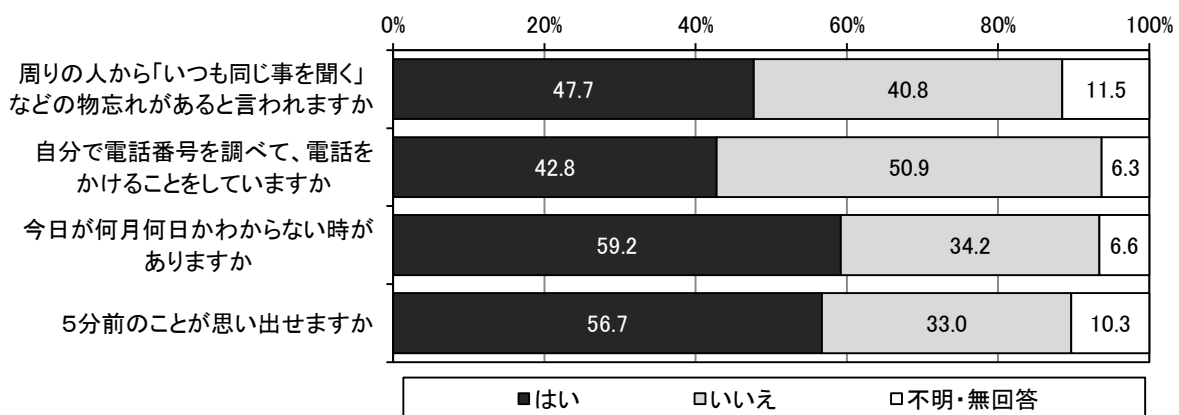
物忘れに関する状況についてみると、一般高齢者では全ての項目で肯定的な回答が大半を占めているものの、『今日が何月何日かわからない時がありますか』では「はい」が27.8%となっています。一方、要介護認定者では、『周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか』、『今日が何月何日かわからない時がありますか』、『5分前のことが思い出せますか』で「はい」が「いいえ」を上回っており、物忘れがあると感じている人が多くなっています。

■ 物忘れの状況

【一般(N=1,401)】



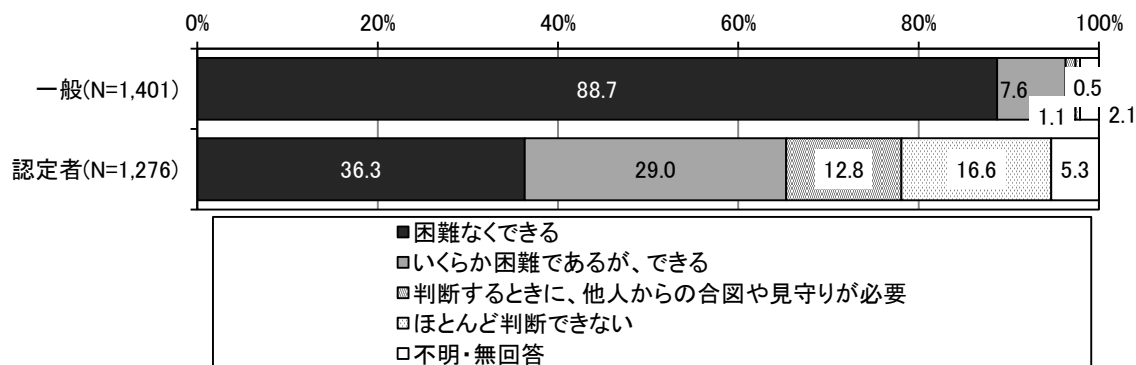
【認定者(N=1,276)】



② 活動の判断

その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）の判断についてみると、一般高齢者では「困難なくできる」が88.7%と最も高く、次いで「いくらか困難であるが、できる」が7.6%となっています。要介護認定者では「困難なくできる」が36.3%、次いで「いくらか困難であるが、できる」が29.0%となっています。

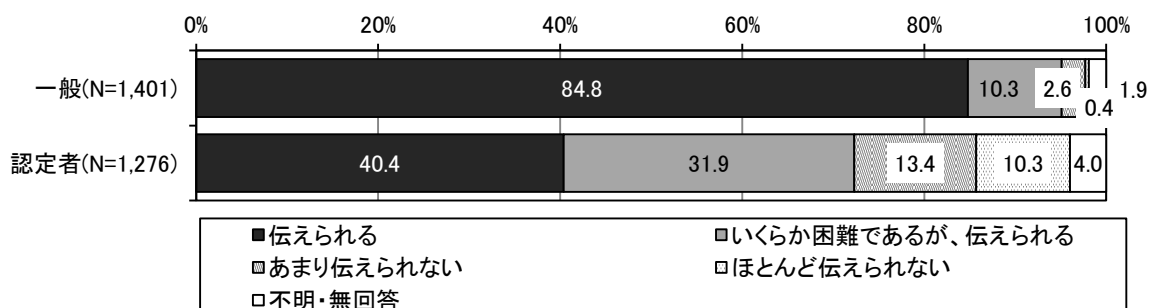
■ 活動の判断状況



③ 自分の考えの伝達

人に自分の考えをうまく伝えられるかについてみると、一般高齢者では「伝えられる」が84.8%と最も高く、次いで「いくらか困難であるが、伝えられる」が10.3%となっています。要介護認定者では「伝えられる」が40.4%と最も高く、次いで「いくらか困難であるが、伝えられる」が31.9%となっています。

■ 自分の考えの伝達状況

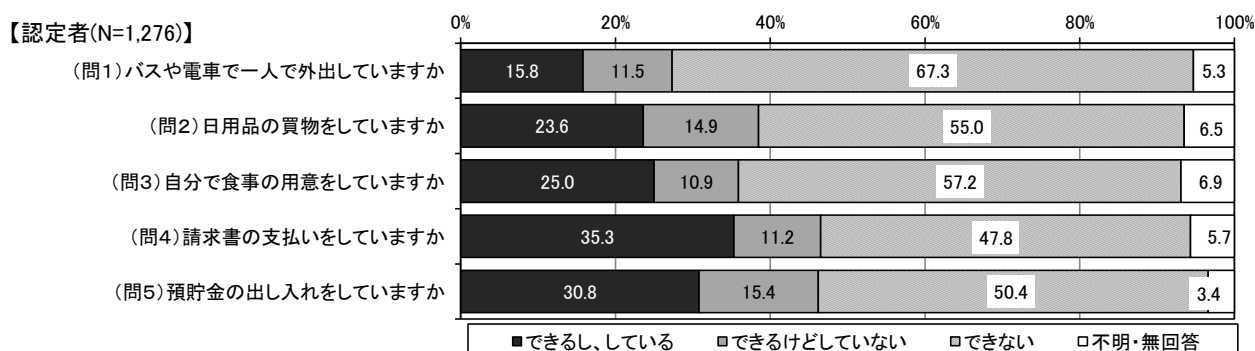
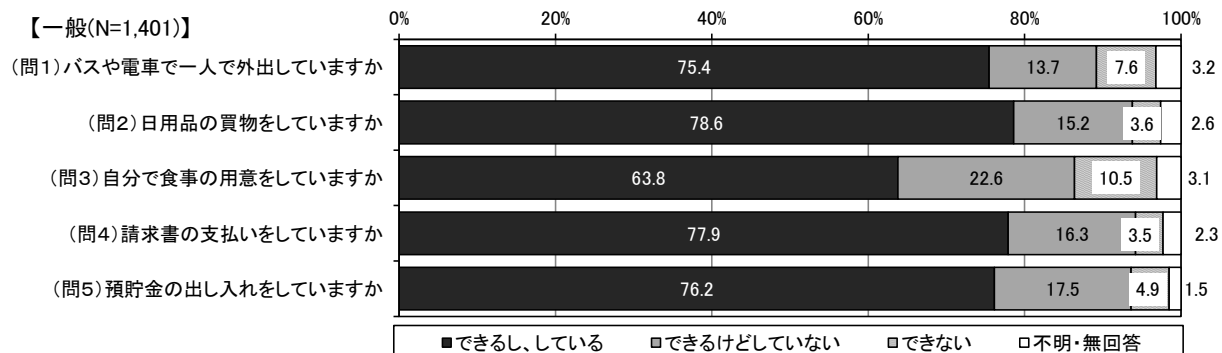


【6】日常生活について

① 日常生活

日常生活に関する状況についてみると、一般高齢者では全設問で「できるし、している」と答えた割合が高くなっています。一方、要介護認定者では一般高齢者と比べると、「できない」と答えた割合が高く、特に『バスや電車で一人で外出していますか』が67.3%と最も高く、次いで『自分で食事の用意をしていますか』が57.2%となっています。

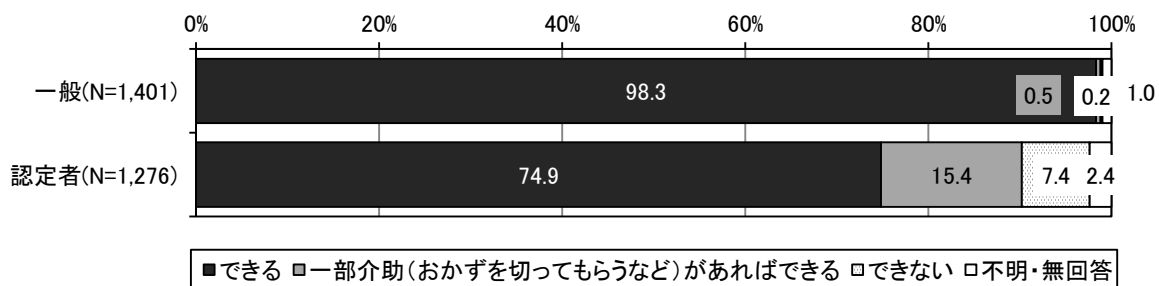
■ 日常生活の状況



② 基本動作

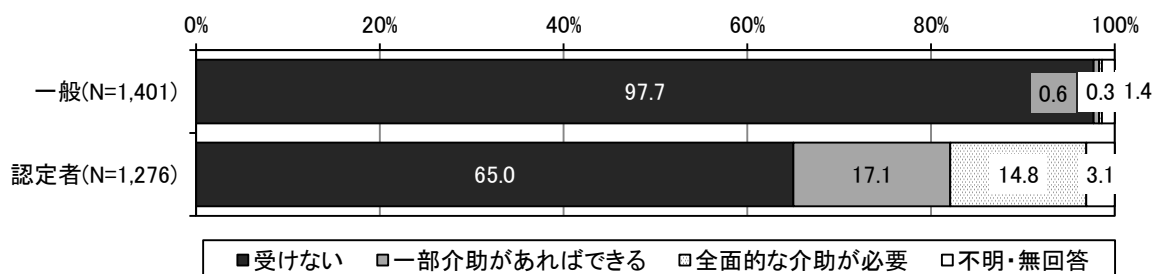
食事は自分で食べられるかについてみると、一般高齢者では「できる」が98.3%と最も高くなっています。要介護認定者では「できる」が74.9%と最も高く、次いで「一部介助（おかずを切ってもらなど）があればできる」が15.4%、「できない」が7.4%となっています。

■ 食事を自分で食べられるかについて



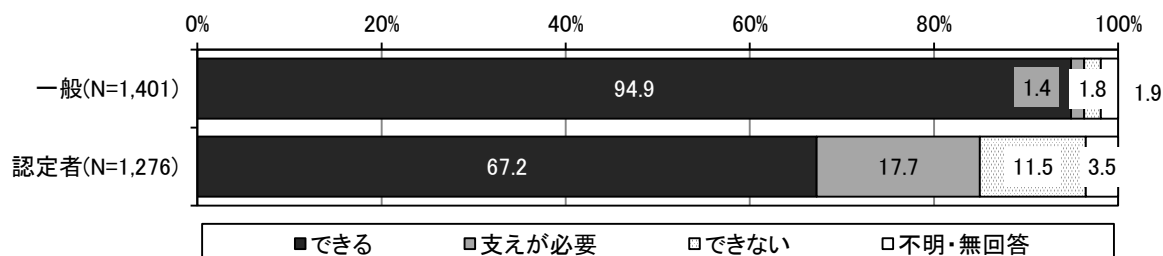
寝床に入るときに介助についてみると、一般高齢者では「受けない」が97.7%と最も高くなっています。要介護認定者では「受けない」が65.0%と最も高く、次いで「一部介助があればできる」が17.1%、「全面的な介助が必要」が14.8%となっています。

■ 寝床に入るときに介助について



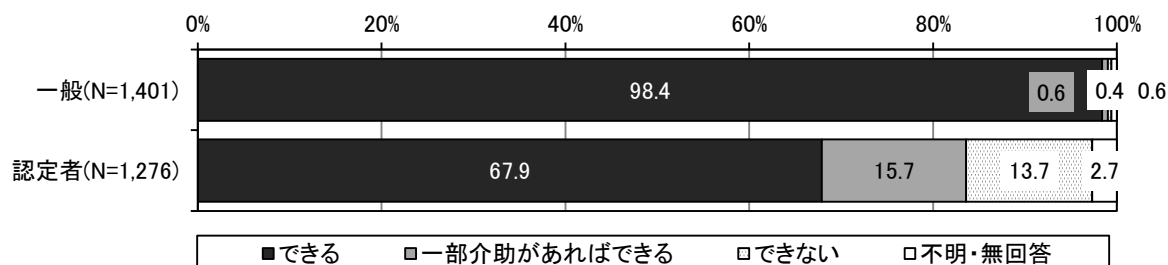
座っていることについてみると、一般高齢者では「できる」が94.9%と最も高くなっています。要介護認定者では「できる」が67.2%と最も高く、次いで「支えが必要」が17.7%、「できない」が11.5%となっています。

■ 座っていることについて



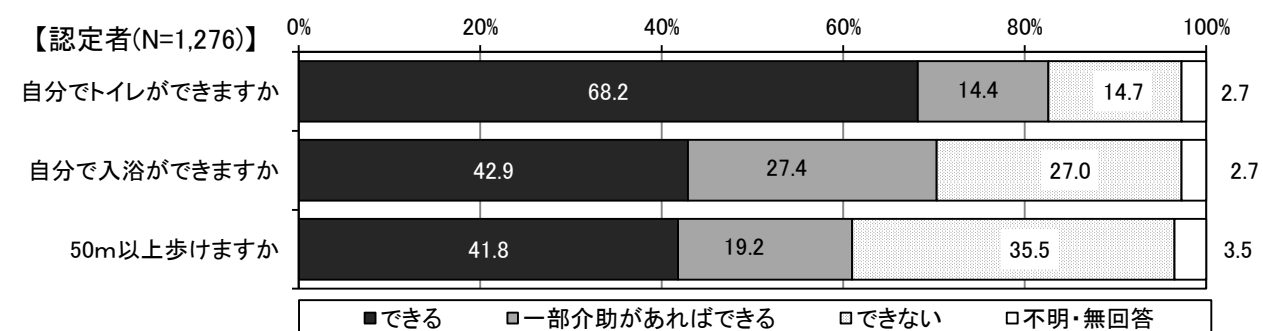
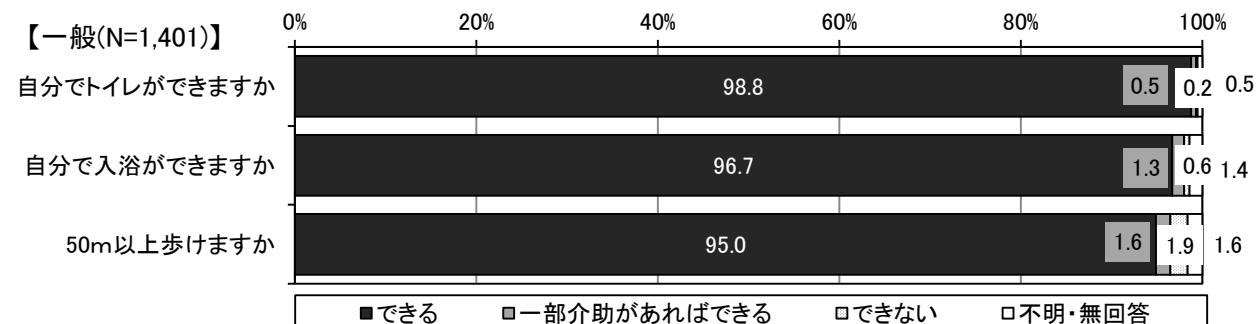
自分で洗面や歯磨きができるかについてみると、一般高齢者では「できる」が98.4%と最も高くなっています。要介護認定者では「できる」が67.9%と最も高く、次いで「一部介助があればできる」が15.7%、「できない」が13.7%となっています。

■ 自身での洗面や歯磨きについて



自身でのトイレ、入浴、50m以上の歩行についてみると、一般高齢者ではすべての設問で9割以上の方が「できる」と答えています。要介護認定者では、トイレ、入浴、50m以上の歩行について、「できる」がそれぞれ68.2%、42.9%、41.8%となっています。

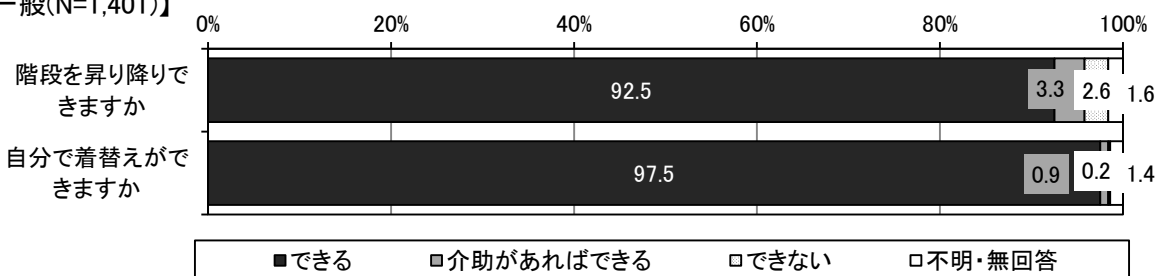
■ 自身でのトイレ、入浴、50m以上の歩行について



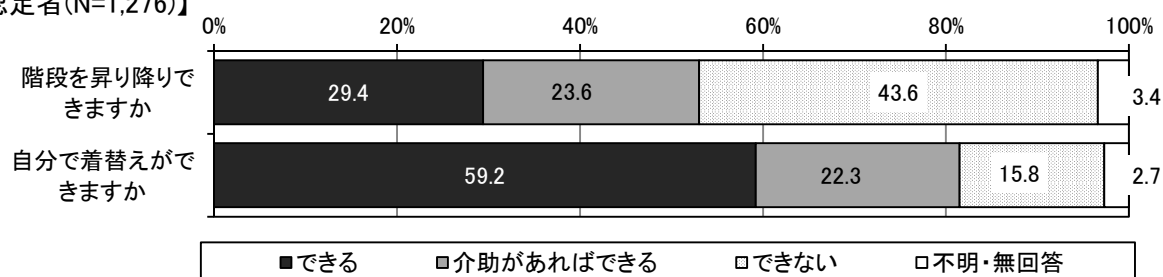
階段の昇り降り、自分で着替えができるかについてみると、一般高齢者では『階段を昇り降りできますか』『自分で着替えができますか』で「できる」がそれぞれ92.5%、97.5%と最も高くなっています。要介護認定者では『階段を昇り降りできますか』で「できない」が43.6%と最も高く、次いで「できる」が29.4%となっています。『自分で着替えができますか』では「できる」が59.2%と最も高く、次いで「介助があればできる」が22.3%となっています。

■ 階段の昇り降り、自身での着替えについて

【一般(N=1,401)】



【認定者(N=1,276)】

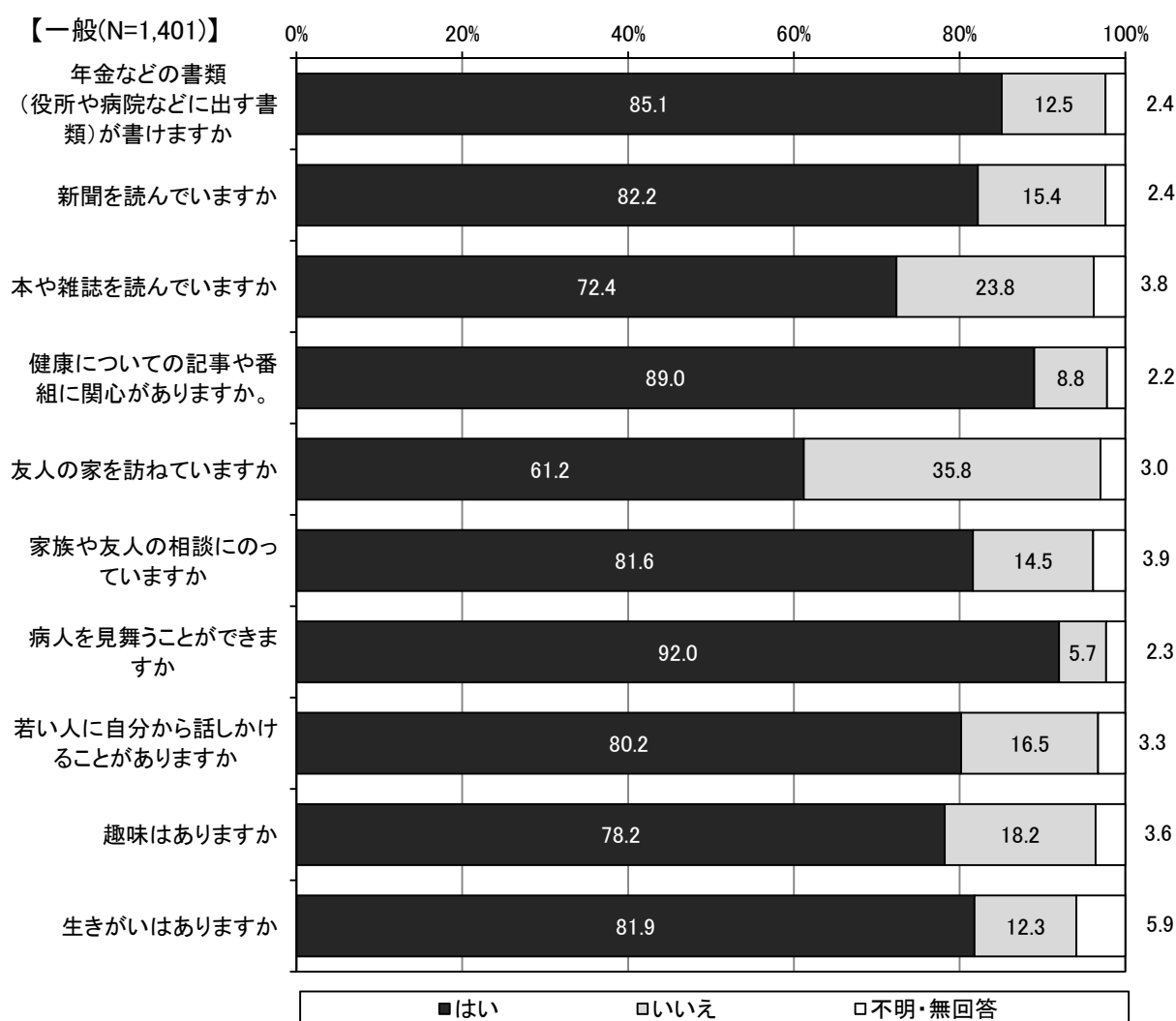


【7】社会参加について

① 社会生活

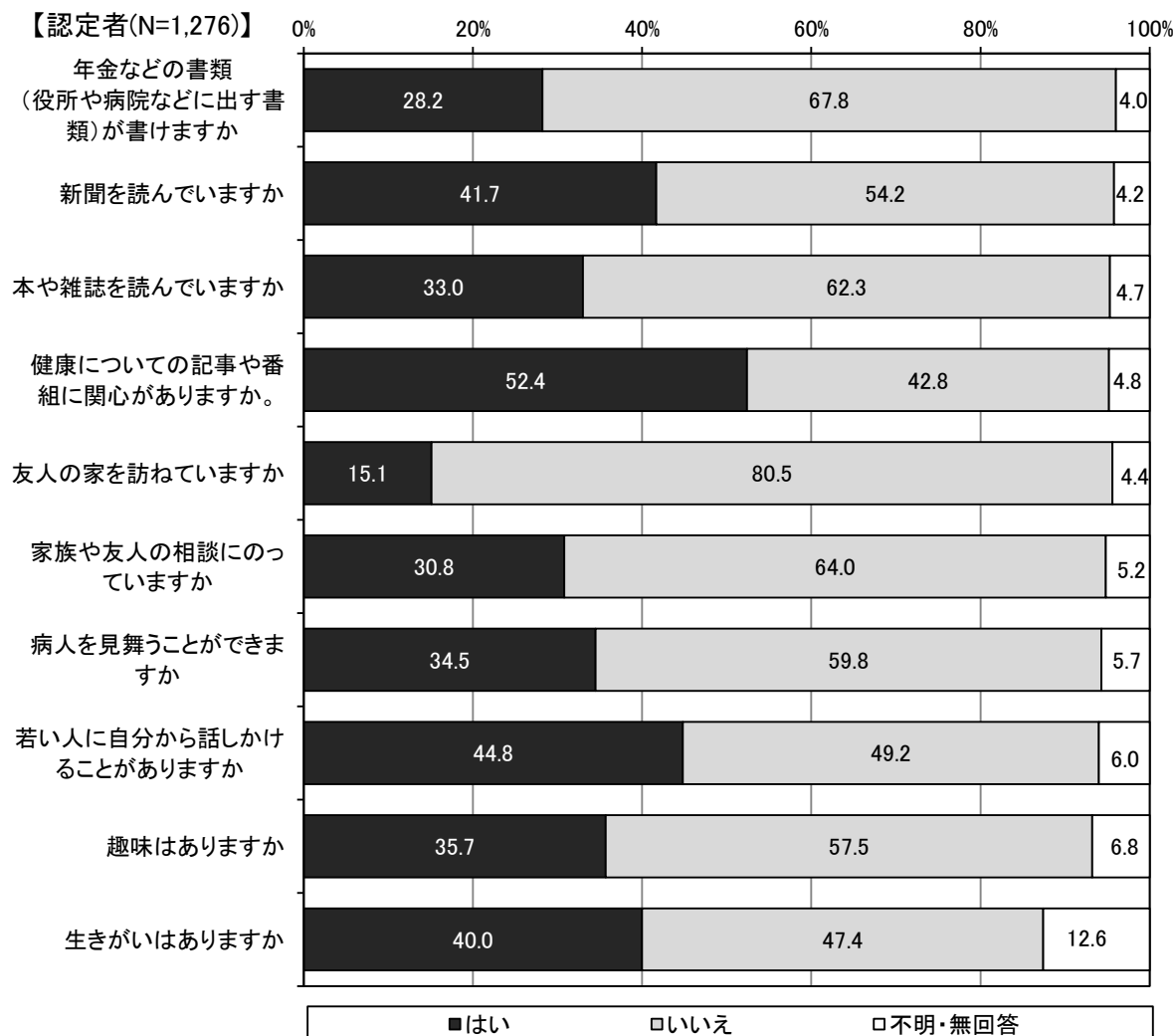
社会生活に関する状況についてみると、一般高齢者では全ての設問で「はい」が「いいえ」を大きく上回っています。『趣味はありますか』で「はい」は78.2%、『生きがいがありますか』で「はい」は81.9%となっています。

■ 社会生活の状況



要介護認定者では、ほとんどの設問で「いいえ」が「はい」を上回っています。『趣味はありますか』で「はい」は35.7%、『生きがいがありますか』で「はい」は40.0%となっています。

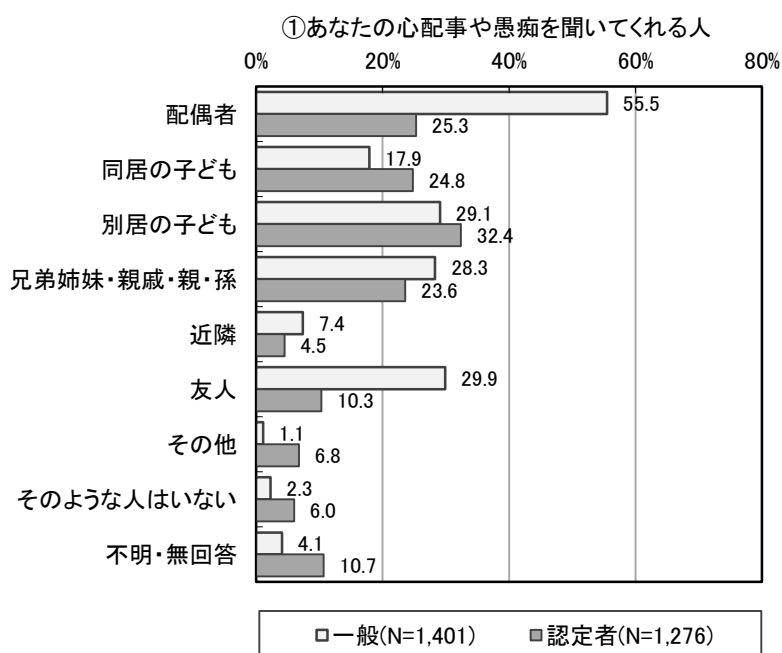
■ 社会生活の状況



② 相談等

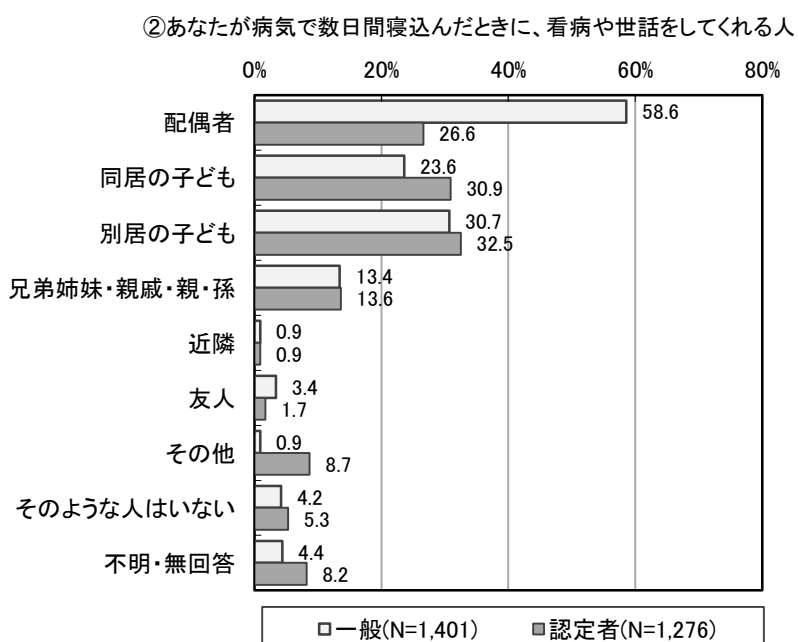
心配事や愚痴を聞いてくれる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」が55.5%と最も高く、次いで「友人」が29.9%、「別居の子ども」が29.1%となっています。要介護認定者では、「別居の子ども」が32.4%と最も高く、次いで「配偶者」が25.3%、「同居の子ども」が24.8%となっています。

■ 心配事や愚痴を聞いてくれる人について＜複数回答あり＞



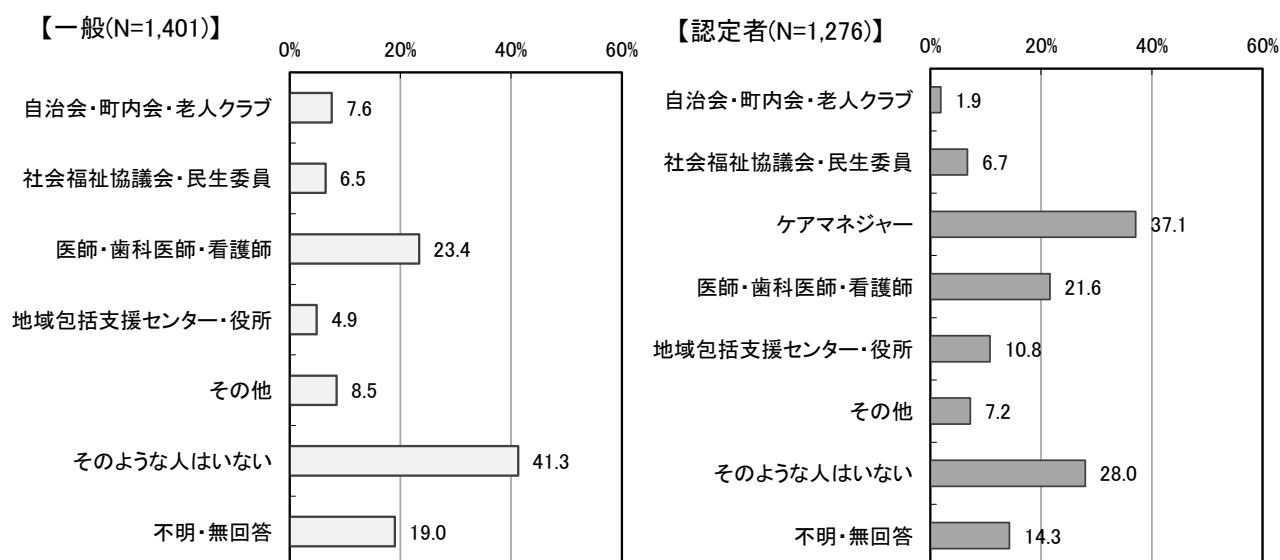
看病や世話をしてくれる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」が58.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」が30.7%、「同居の子ども」が23.6%となっています。要介護認定者では、「別居の子ども」が32.5%と最も高く、次いで「同居の子ども」が30.9%、「配偶者」が26.6%となっています。

■ 看病や世話をしてくれる人について＜複数回答あり＞



家族や友人・知人以外で相談する相手についてみると、一般高齢者では「そのような人はいない」が41.3%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が23.4%となっています。要介護認定者では「ケアマネジャー」が37.1%と最も高く、次いで「そのような人はいない」が28.0%、「医師・歯科医師・看護師」が21.6%となっています。

■ 家族や友人・知人以外で相談する相手について＜複数回答あり＞

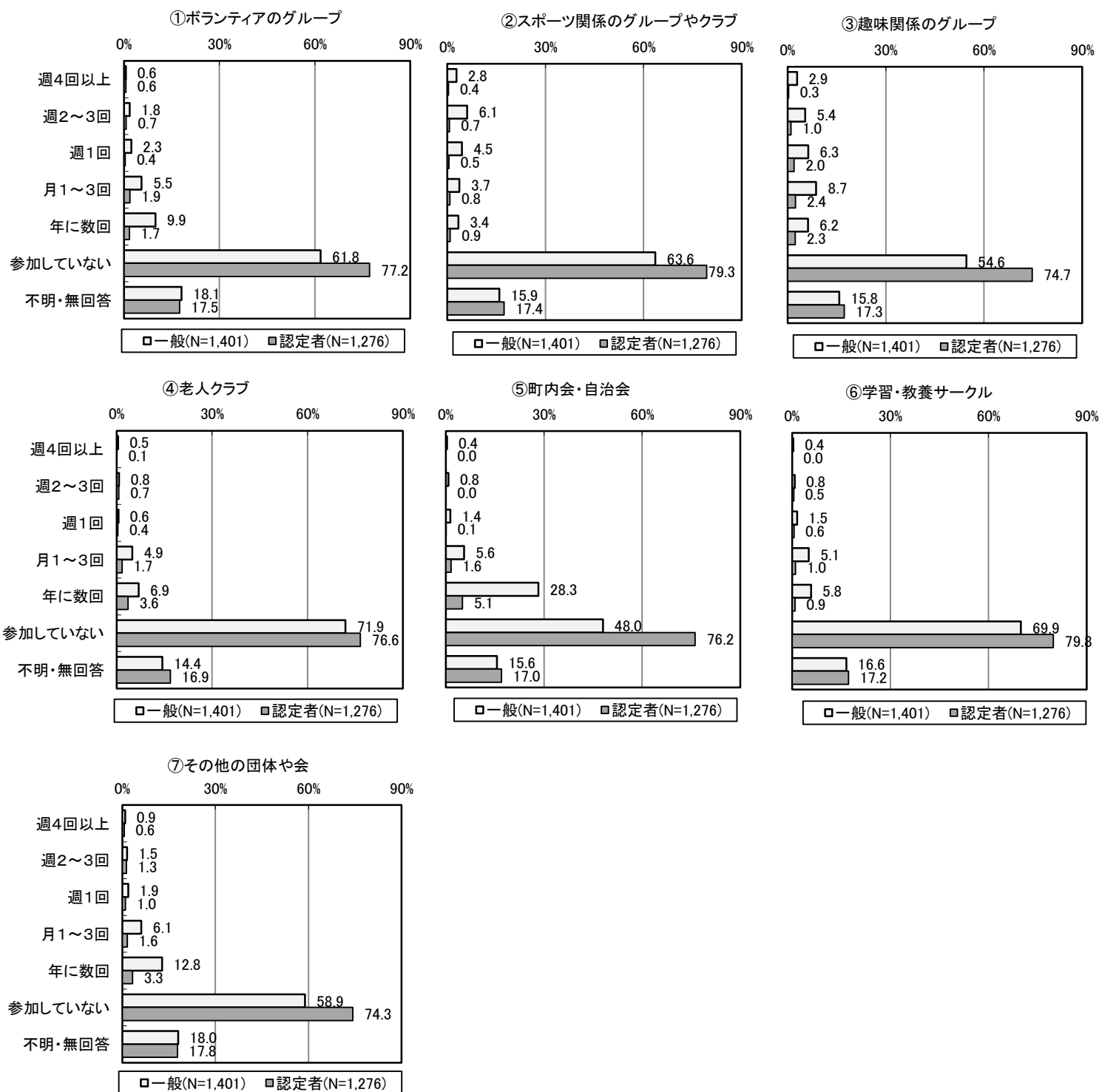


③ 地域活動への参加状況

会・グループ等への参加頻度についてみると、いずれの会・グループ等においても、一般高齢者、要介護認定者ともに「参加していない」の割合が最も高くなっています。

『町内会・自治会』では「年に数回」参加している人が一般高齢者で28.3%、要介護認定者で5.1%と他の会・グループ等と比較して高くなっています。

■ 会・グループ等への参加頻度

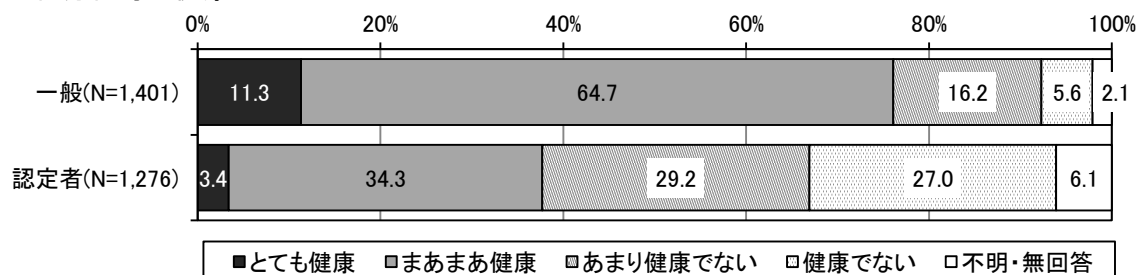


【8】健康について

① 主観的健康感

健康状態についてみると、一般高齢者では「まあまあ健康」が64.7%と最も高く、次いで「あまり健康でない」が16.2%となっています。要介護認定者では「まあまあ健康」が34.3%と最も高く、次いで「あまり健康でない」が29.2%となっています。

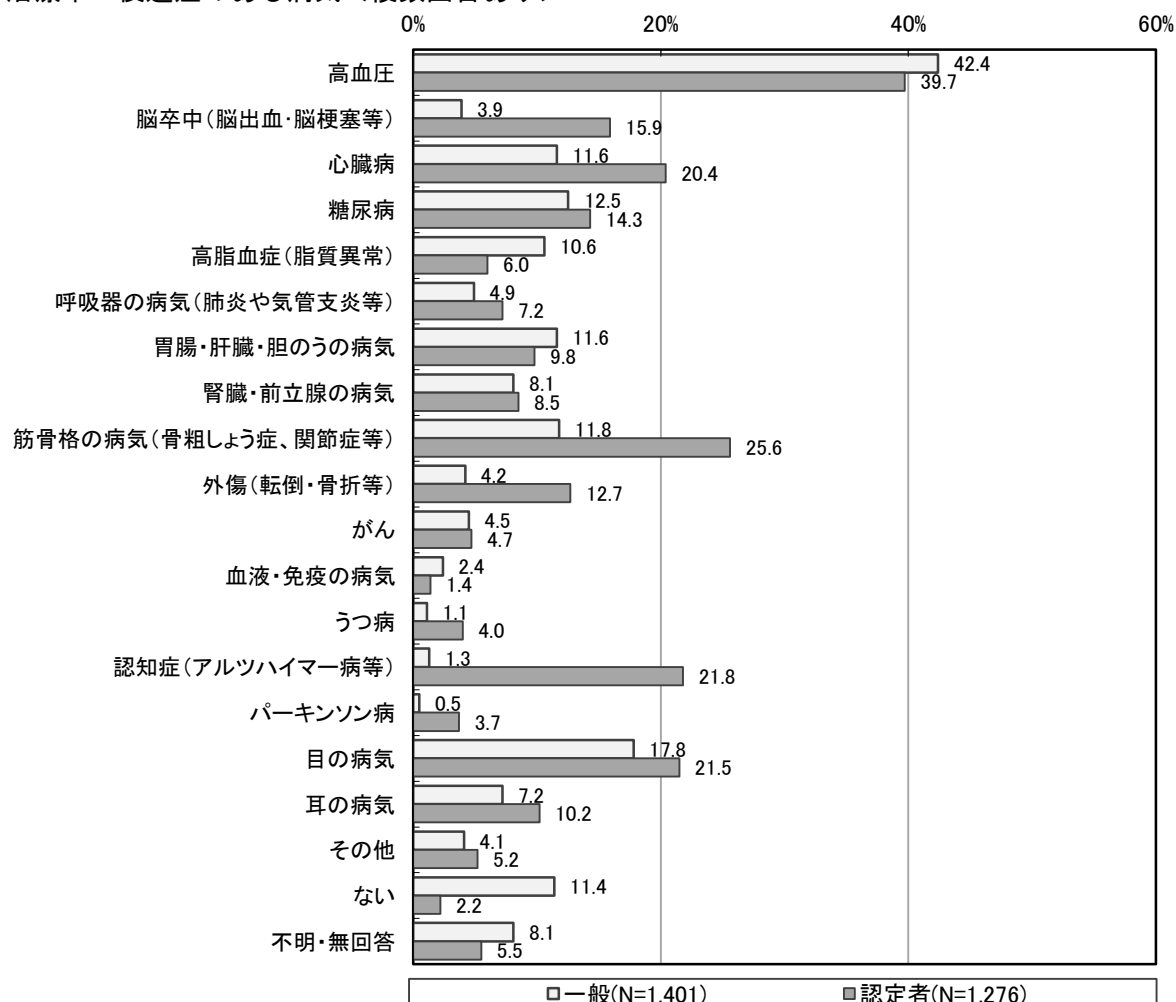
■ 自分自身の健康について



② 治療中又は後遺症のある病気

治療中・後遺症のある病気についてみると、一般高齢者では「高血圧」が42.4%と最も高く、次いで「目の病気」が17.8%、「糖尿病」が12.5%となっています。要介護認定者では、「高血圧」が39.7%と最も高く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が25.6%、「認知症（アルツハイマー病等）」が21.8%となっています。

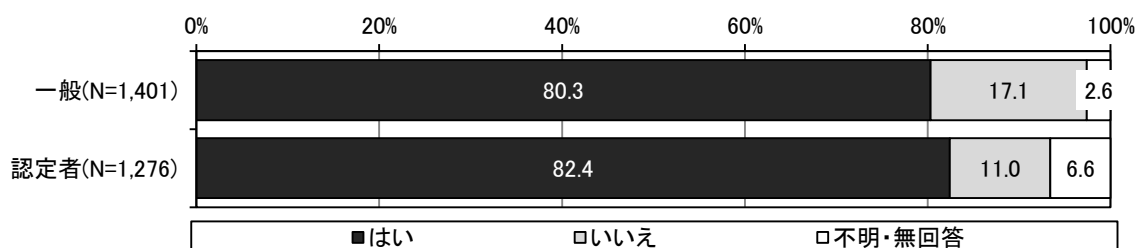
■ 治療中・後遺症のある病気＜複数回答あり＞



③ 通院状況

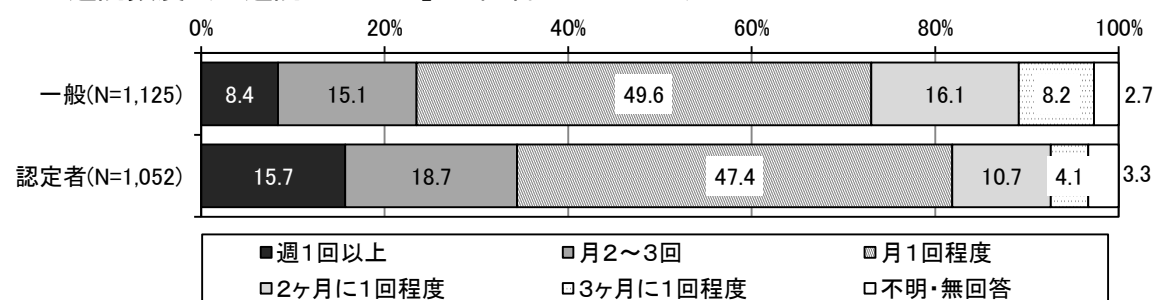
通院しているかについてみると、一般高齢者では「はい」が80.3%、「いいえ」が17.1%となっています。要介護認定者では「はい」が82.4%、「いいえ」が11.0%となっています。

■ 通院状況



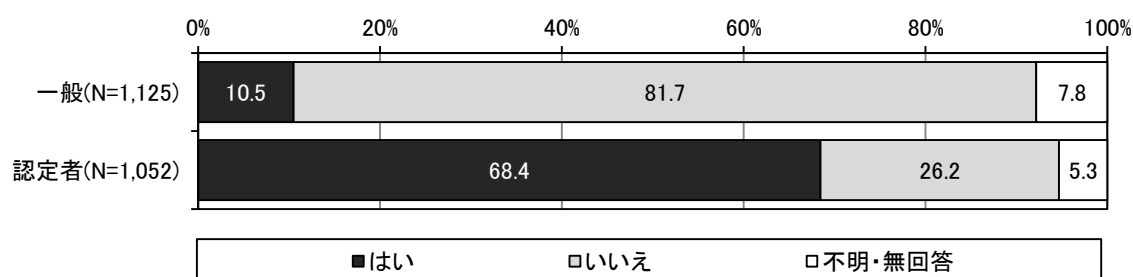
通院していると回答した人に、通院頻度についてたずねると、一般高齢者では「月1回程度」が49.6%と最も高く、次いで「2ヶ月に1回程度」が16.1%、「月2～3回」が15.1%となっています。要介護認定者では「月1回程度」が47.4%と最も高く、次いで「月2～3回」が18.7%、「週1回以上」が15.7%となっています。

■ 通院頻度（「通院している」と回答した人のみ）



通院していると回答した人に、通院に介助が必要かどうかについてたずねると、一般高齢者では「はい」が10.5%、「いいえ」が81.7%となっています。要介護認定者では「はい」が68.4%、「いいえ」が26.2%となっています。

■ 介助の必要性（「通院している」と回答した人のみ）

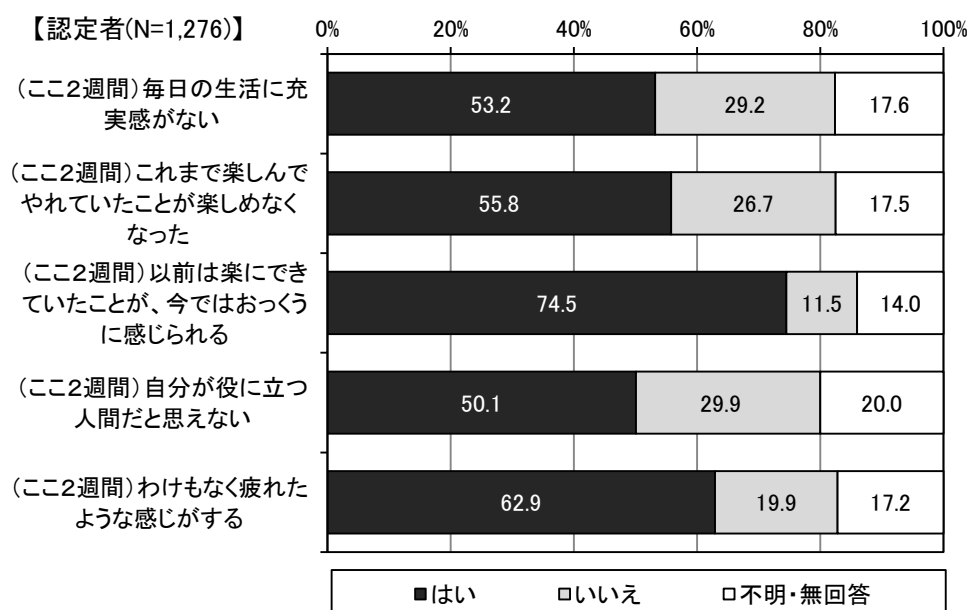
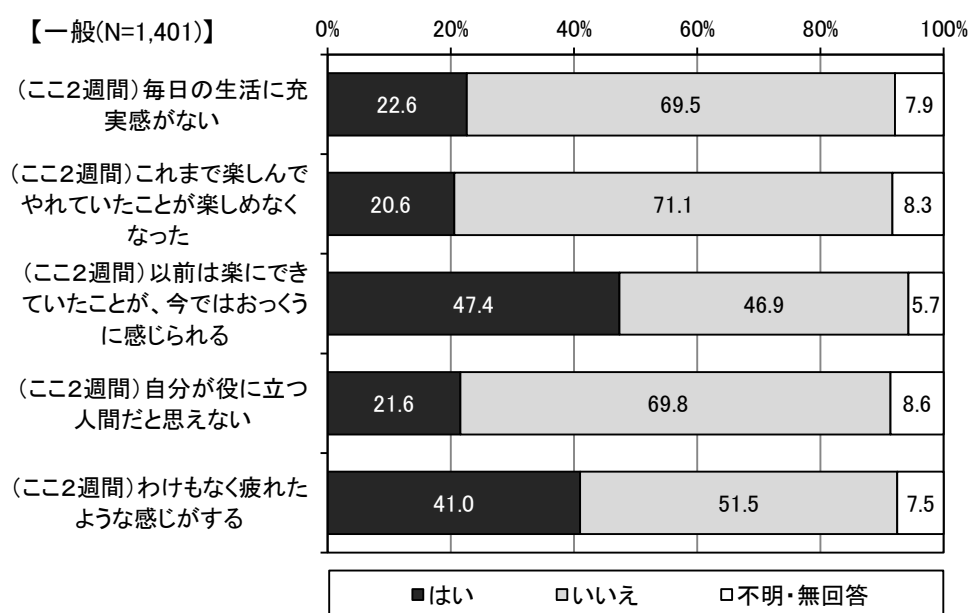


④ 心や身体の状態

日々の充実感についてみると、一般高齢者では『（ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる』が47.4%と最も高く、次いで『（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする』が41.0%となっています。

一方、一般高齢者に比べ、要介護認定者では、全設問で割合が高くなっており、特に『（ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる』が74.5%、『（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする』が62.9%となっています。

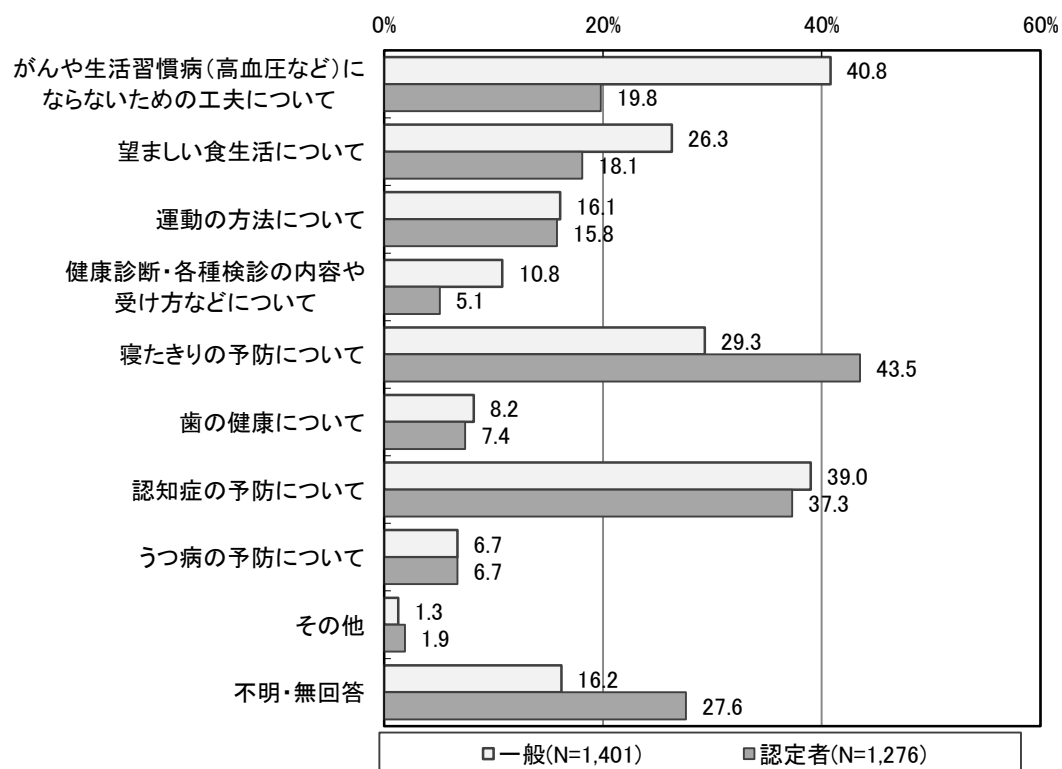
■ 心や身体の状態



⑤ 健康について知りたいこと

健康について知りたいことについてみると、一般高齢者では「がんや生活習慣病（高血圧など）にならないための工夫について」が40.8%と最も高く、次いで「認知症の予防について」が39.0%となっています。要介護認定者では「寝たきりの予防について」が43.5%と最も高く、次いで「認知症の予防について」が37.3%となっています。

■ 健康について知りたいこと＜複数回答あり＞

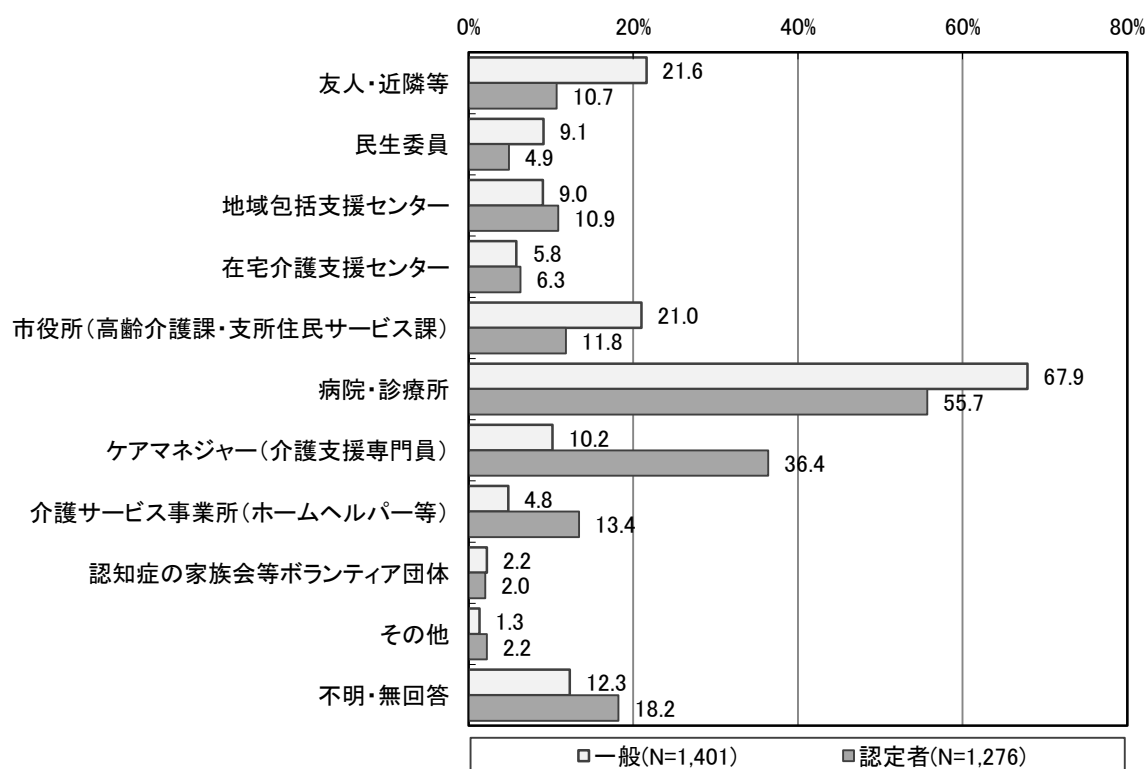


【9】認知症について

① 身近なところでの認知症

身近な方に認知症の疑いがあるときに、どこに相談するかについてみると、一般高齢者では「病院・診療所」が67.9%と最も高く、次いで「友人・近隣等」が21.6%、「市役所（高齢介護課・支所住民サービス課）」が21.0%となっています。要介護認定者では「病院・診療所」が55.7%と最も高く、次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が36.4%、「介護サービス事業所（ホームヘルパー等）」が13.4%となっています。

■ 身近な方に認知症の疑いがあるときの相談先について＜複数回答あり＞

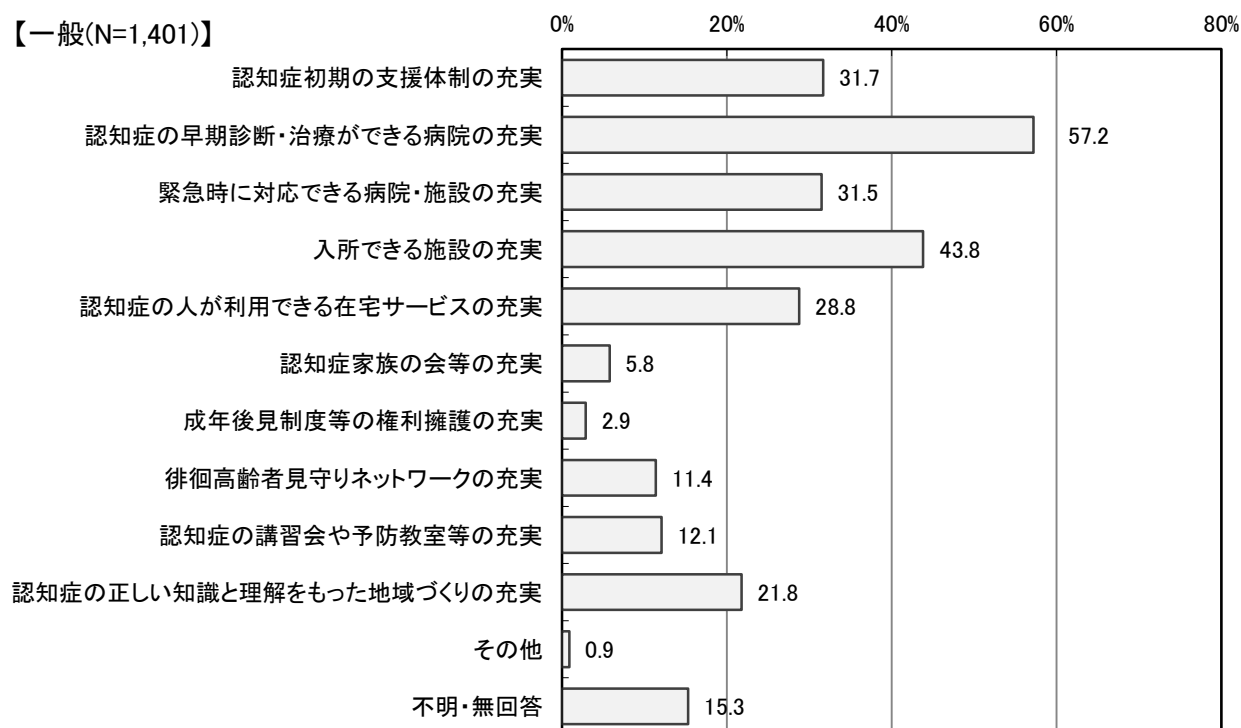


② 安心して暮らしていくための施策

認知症施策として望むことについてみると、一般高齢者では「認知症の早期診断・治療ができる病院の充実」が57.2%と最も高く、次いで「入所できる施設の充実」が43.8%、「認知症初期の支援体制の充実」が31.7%となっています。

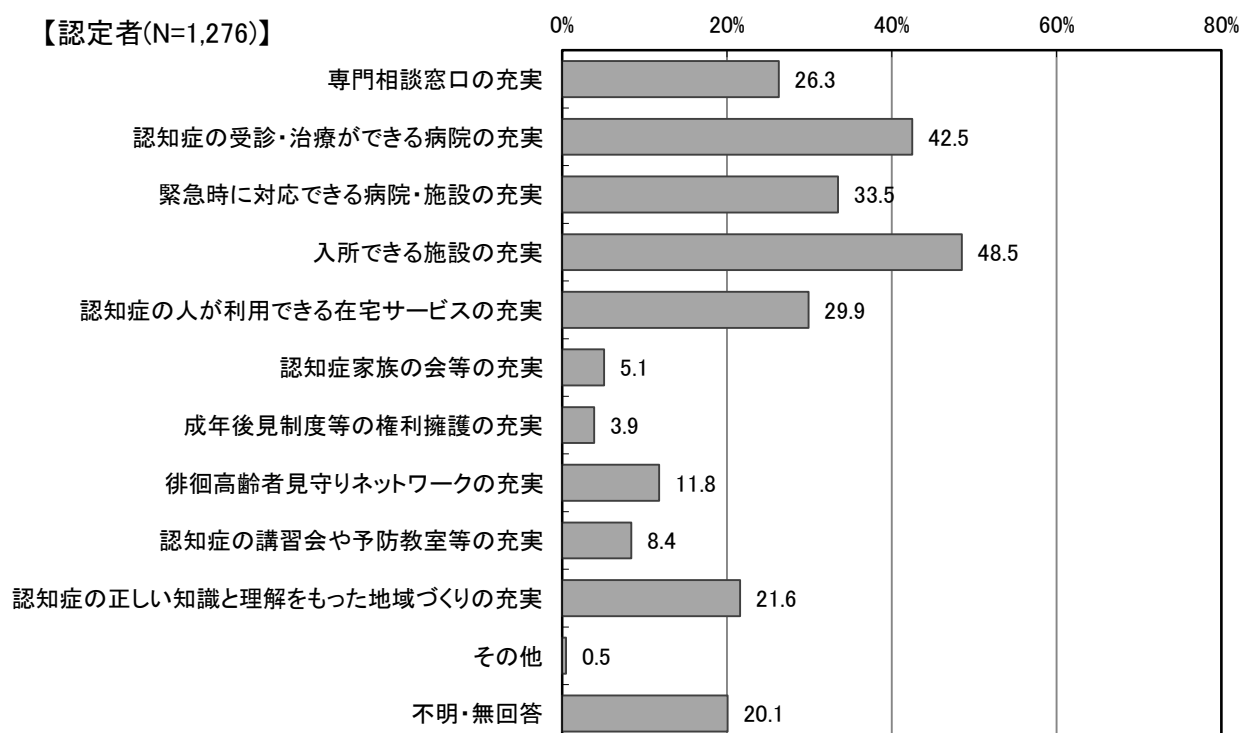
■ 認知症施策として望む事＜複数回答あり＞

【一般(N=1,401)】



要介護認定者では「入所できる施設の充実」が48.5%と最も高く、次いで「認知症の受診・治療ができる病院の充実」が42.5%、「緊急時に対応できる病院・施設の充実」が33.5%となっています。

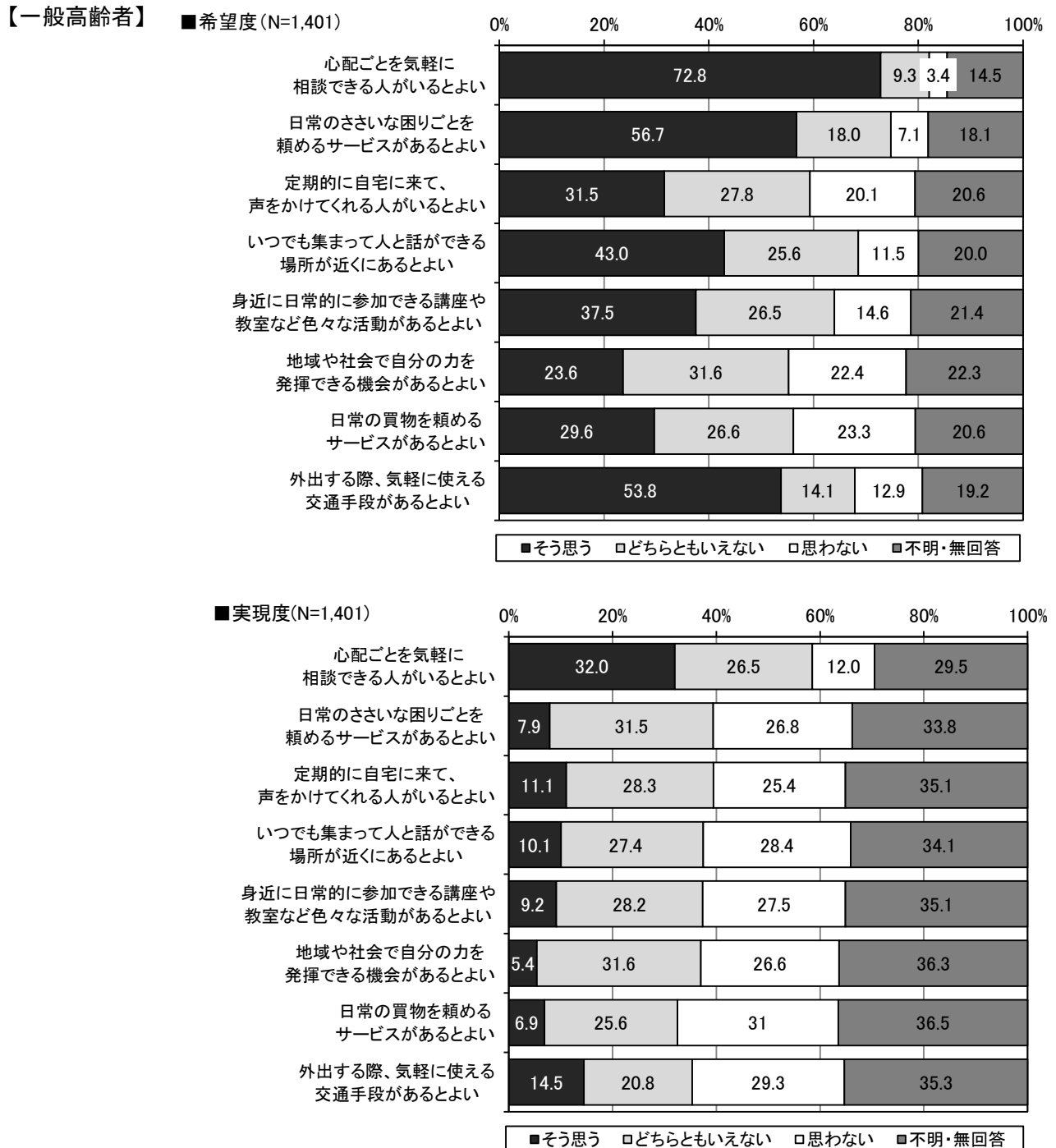
【認定者(N=1,276)】



【10】高齢者保健福祉について

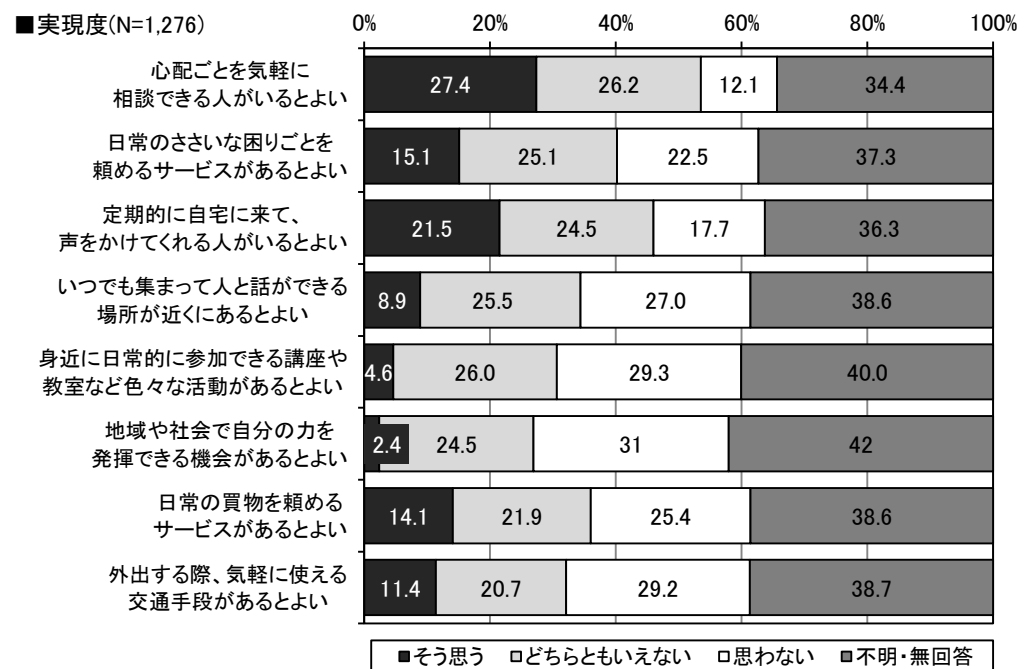
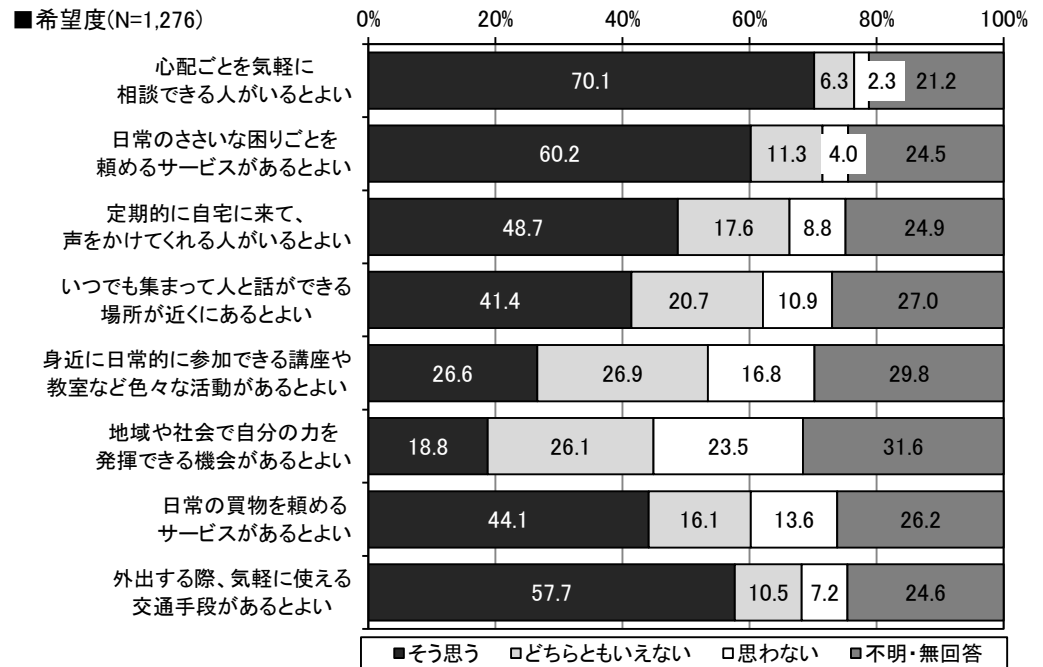
高齢者保健福祉についての希望度についてみると、一般高齢者では『心配ごとを気軽に相談できる人がいるとよい』、『日常のささいな困りごとを頼めるサービスがあるとよい』、『外出する際、気軽に使える交通手段があるとよい』の順で希望があるものの、実現度についてはいずれも低くなっています。

■ 高齢者保健福祉についての希望度と実現度について



要介護認定者の希望度でも、『心配ごとを気軽に相談できる人がいるとよい』、『日常のささいな困りごとを頼めるサービスがあるとよい』、『外出する際、気軽に使える交通手段があるとよい』の順で希望があるものの、実現度についてはいずれも低くなっています。

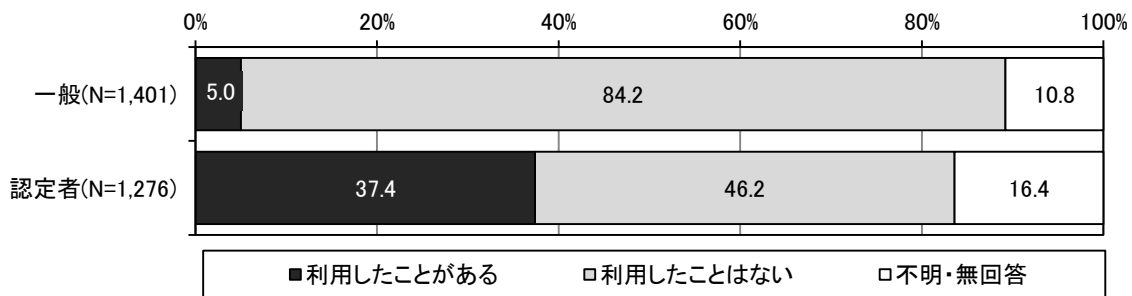
【要介護認定者】



【11】地域包括支援センターについて

地域包括支援センターの利用についてみると、一般高齢者では「利用したことはない」が84.2%となっています。要介護認定者では「利用したことはない」が46.2%、「利用したことがある」が37.4%となっています。

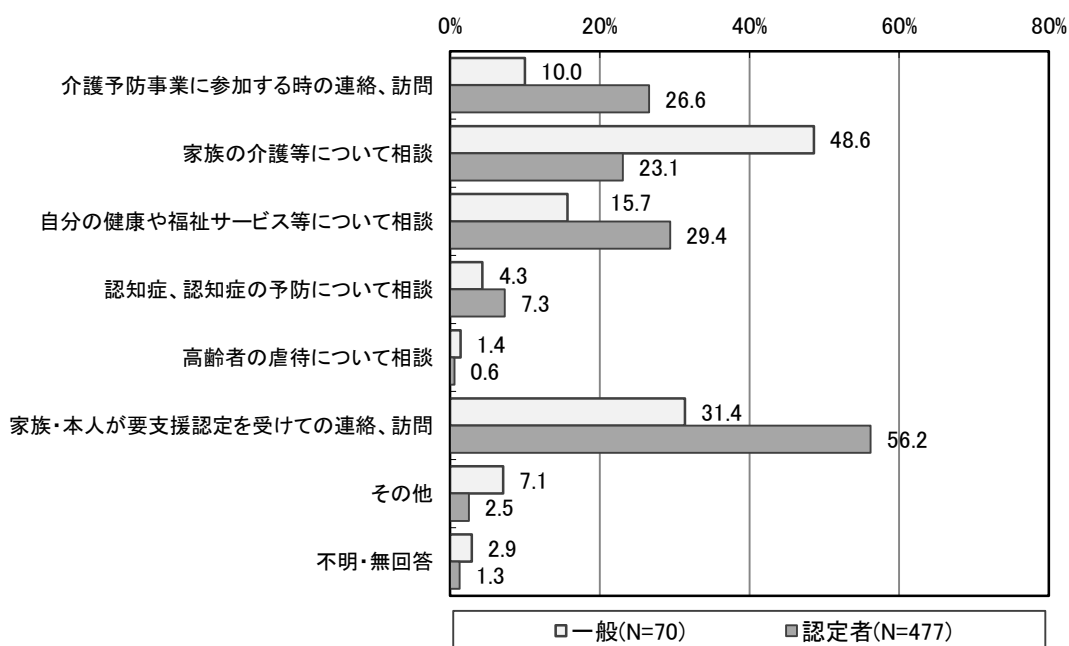
■ 地域包括支援センターの利用状況



地域包括支援センターを利用したことがあると回答した人に、その利用目的についてたずねると、一般高齢者では「家族の介護等について相談」が48.6%と最も高く、次いで「家族・本人が要支援認定を受けての連絡、訪問」が31.4%、「自分の健康や福祉サービス等について相談」が15.7%となっています。

要介護認定者では「家族・本人が要支援認定を受けての連絡、訪問」が56.2%と最も高く、次いで「自分の健康や福祉サービス等について相談」が29.4%、「介護予防事業に参加する時の連絡、訪問」が26.6%となっています。

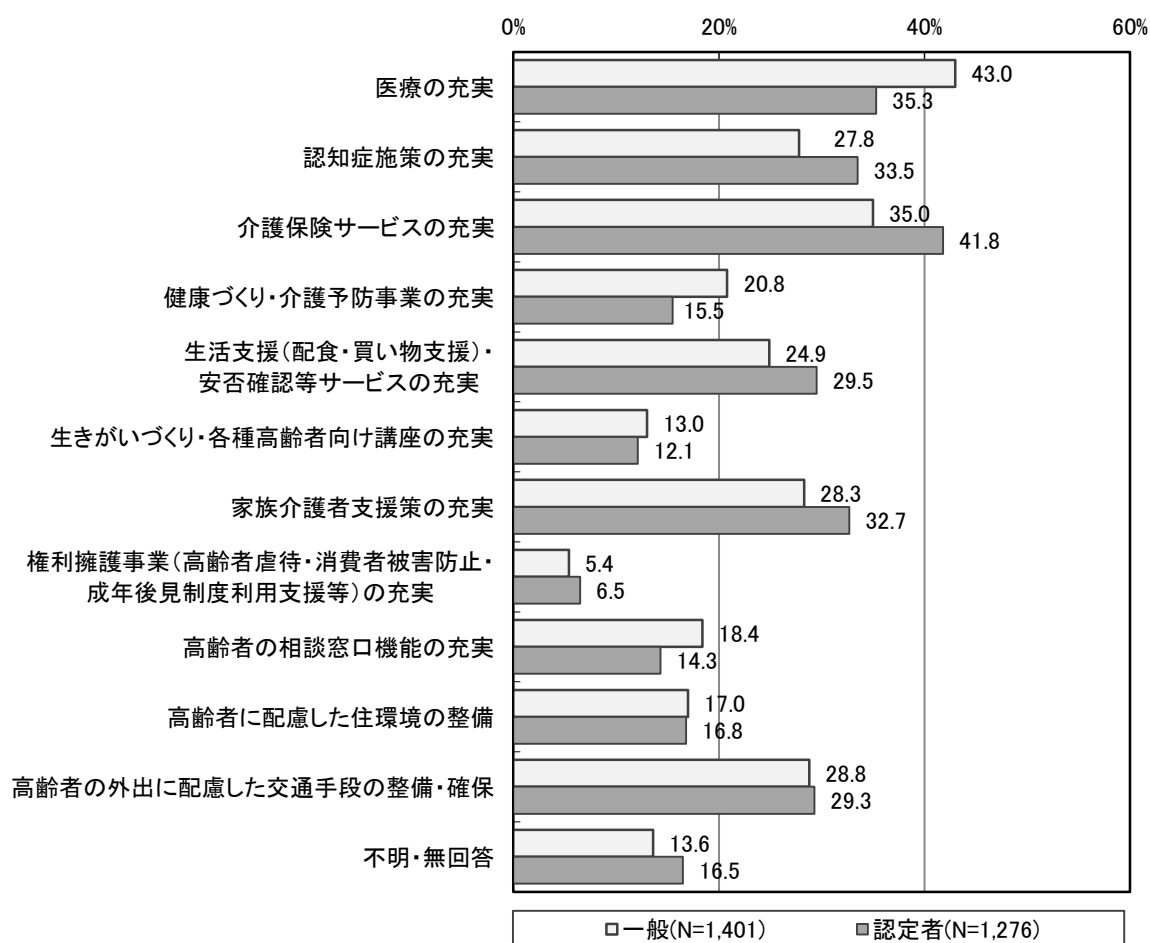
■ 利用した内容（「利用したことがある」と回答した人のみ）＜複数回答あり＞



【12】施策の方向性について

高齢者施策について力をいれてほしいことについてみると、一般高齢者では「医療の充実」が43.0%と最も高く、次いで「介護保険サービスの充実」が35.0%、「高齢者の外出に配慮した交通手段の整備・確保」が28.8%となっています。要介護認定者では「介護保険サービスの充実」が41.8%と最も高く、次いで「医療の充実」が35.3%、「認知症施策の充実」が33.5%となっています。

■ 高齢者施策について、今後力をいれてほしいこと＜複数回答あり＞

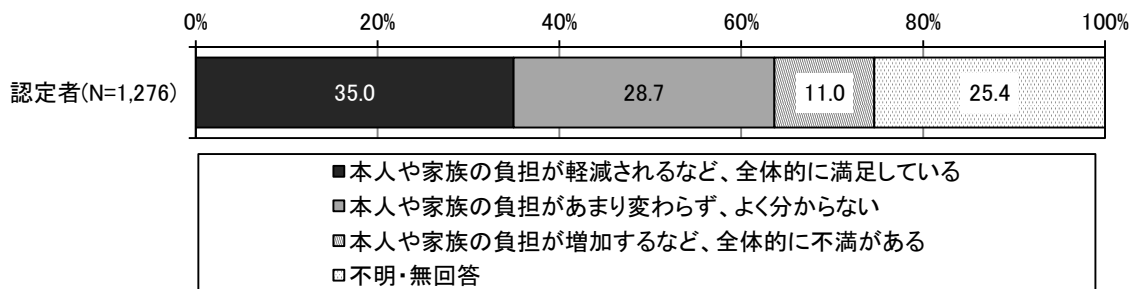


【13】介護保険制度について

① 制度に対する評価（要支援・要介護認定者のみ）

要介護認定者の介護保険制度に対する評価についてみると、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が35.0%と最も高く、次いで「本人や家族の負担があまり変わらず、よく分からない」が28.7%となっています。

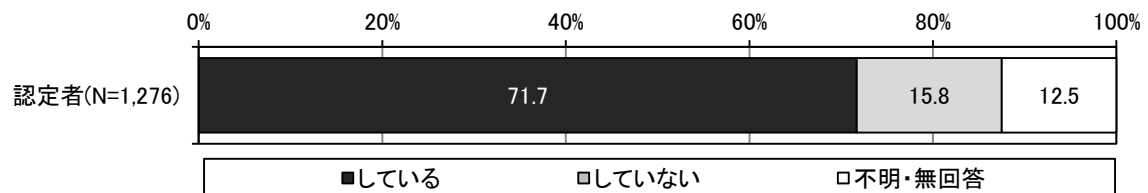
■ 介護保険制度に対する評価



② 介護保険サービスの利用状況（要支援・要介護認定者のみ）

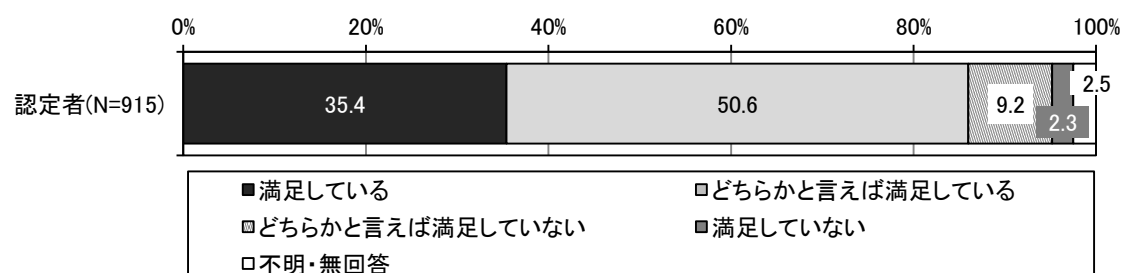
要介護認定者の介護保険サービスの利用についてみると、「利用している」が71.7%、「利用していない」が15.8%となっています。

■ 介護保険サービスの利用状況



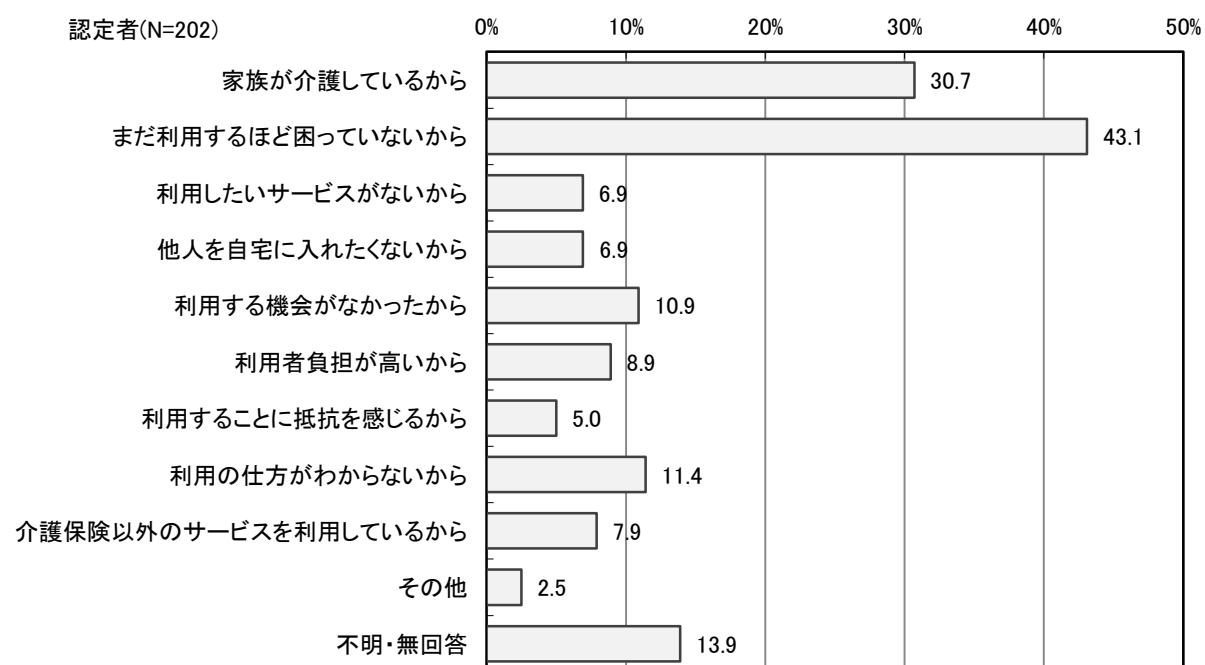
現在、介護保険サービスを利用していると回答した人に、利用している介護保険サービスの満足度についてたずねると、「どちらかと言えば満足している」が50.6%と最も高く、次いで「満足している」が35.4%、「どちらかと言えば満足していない」が9.2%となっています。

■ 介護保険サービスの満足度（「利用している」と回答した人のみ）



現在、介護保険サービスを利用していないと回答した人に、その理由をたずねると、「まだ利用するほど困っていないから」が43.1%と最も高く、次いで「家族が介護しているから」が30.7%、「利用の仕方がわからないから」が11.4%となっています。

■ 介護保険サービスを利用しない理由（「利用していない」と回答した人のみ）＜複数回答あり＞



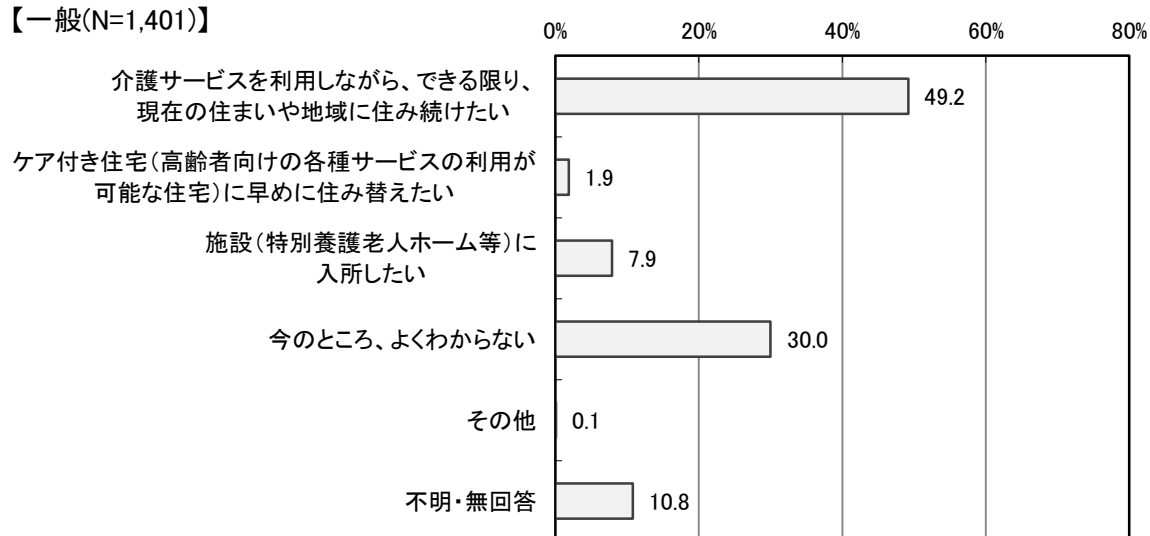
③ 今後の暮らし方に対する考え

将来の住まいと介護サービスの利用についてみると、一般高齢者、要介護認定者ともに「介護サービスを利用しながら、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」がそれぞれ 49.2%、57.8%と最も高くなっています。次いで、一般高齢者では「今のところ、よくわからない」が 30.0%、「施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」が 7.9%となっています。

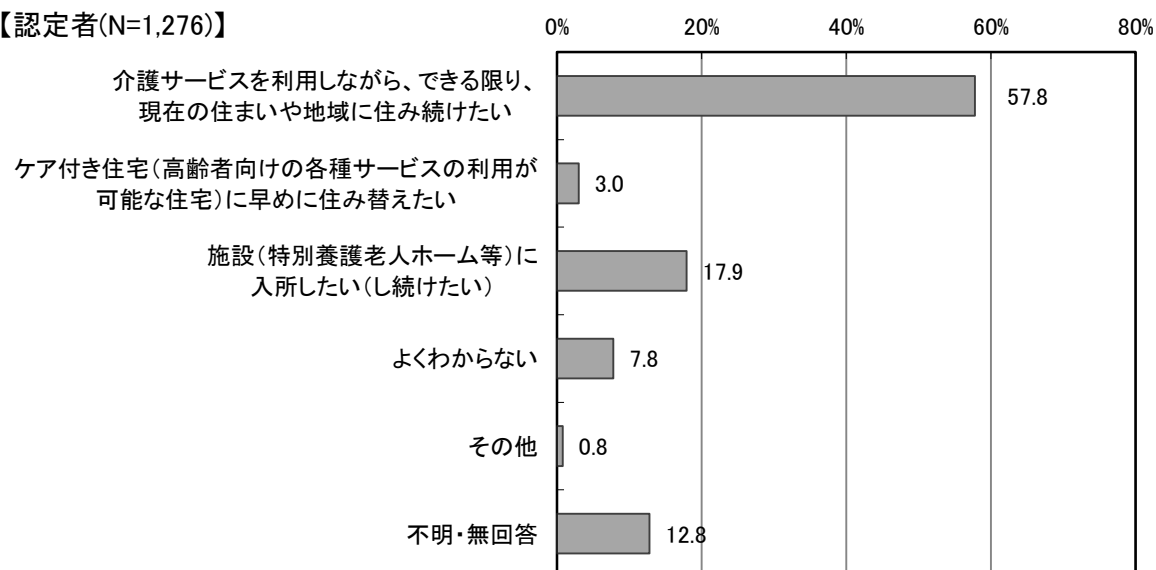
要介護認定者では、「施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい（し続けたい）」が 17.9%、「よくわからない」が 7.8%となっています。

■ 将来の住まいと介護サービスの利用について

【一般(N=1,401)】

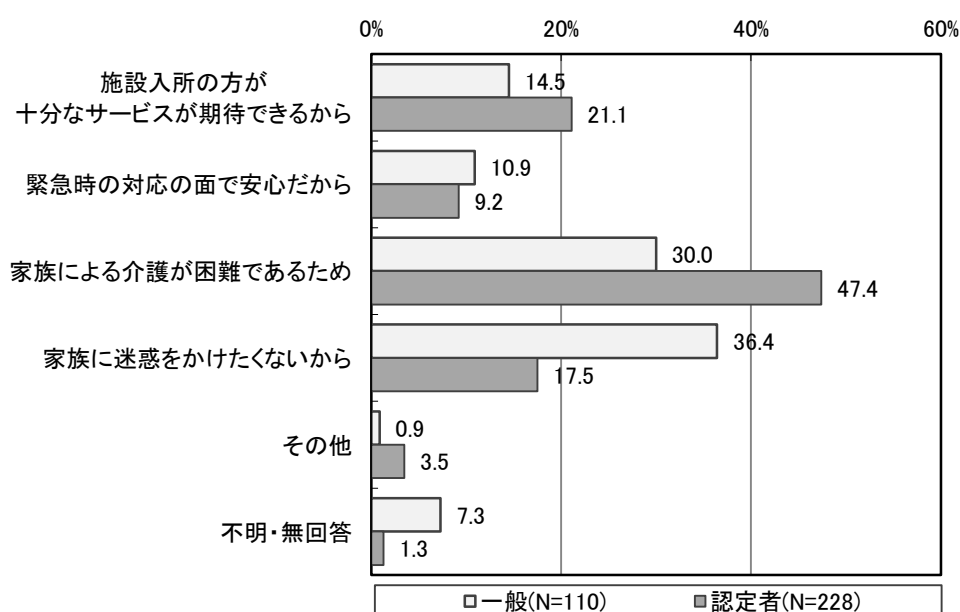


【認定者(N=1,276)】



将来の住まいと介護サービスの利用について、施設に入所したいと回答した人に、入所を希望する理由をたずねると、一般高齢者では「家族に迷惑をかけたくないから」が36.4%と最も高く、次いで「家族による介護が困難であるため」が30.0%となっています。要介護認定者では、「家族による介護が困難であるため」が47.4%と最も高く、次いで「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」が21.1%となっています。

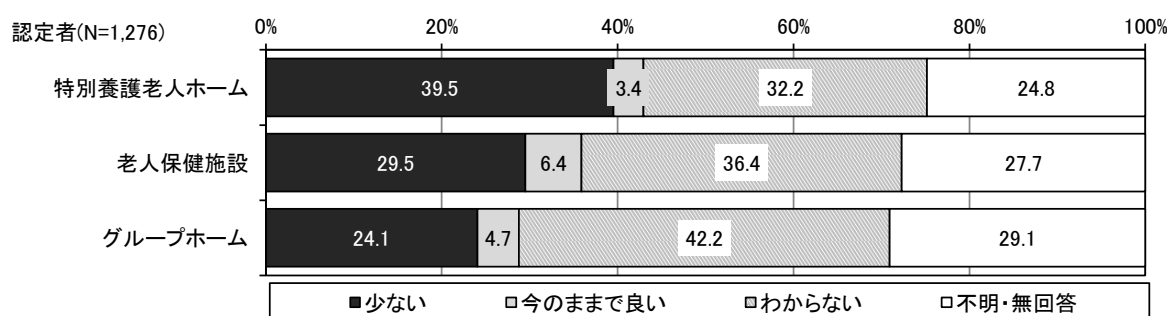
■ 施設入所を希望する理由（「施設に入所したい」と回答した人のみ）



④ 施設等の整備状況（要支援・要介護認定者のみ）

要介護認定者の現在の施設等の整備状況についてみると、「特別養護老人ホーム」では『少ない』が39.5%と最も高く、次いで『わからない』が32.2%となっています。「老人保健施設」、「グループホーム」ではともに『わからない』がそれぞれ36.4%、42.2%と最も高く、『少ない』がそれぞれ29.5%、24.1%となっています。

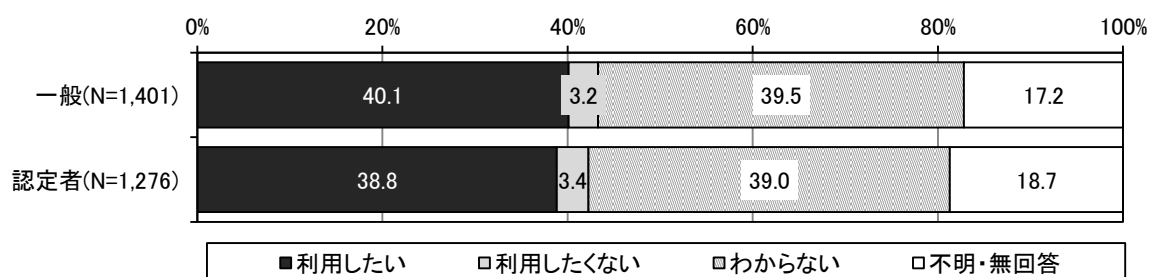
■ 施設等の整備状況



⑤ 在宅サービスの利用

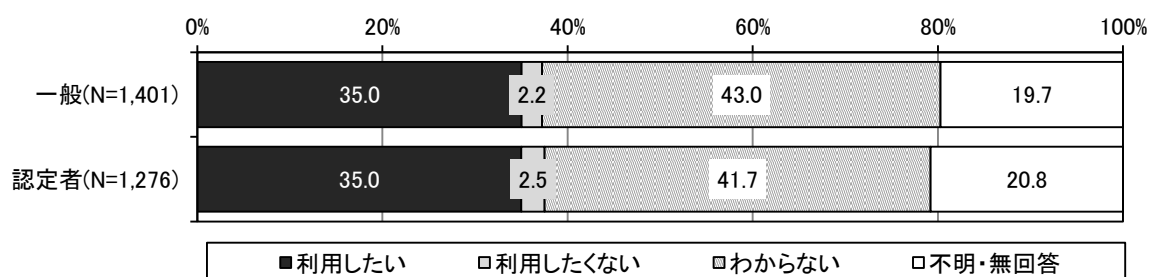
在宅サービスの利用についてみると、「訪問介護と訪問看護を一体的に受けることができる24時間対応のサービス」（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）は一般高齢者では『利用したい』が40.1%、『わからない』が39.5%となっています。要介護認定者では、『利用したい』が38.8%、『わからない』が39.0%となっています。

■ 訪問介護と訪問看護を一体的に受けることができる24時間対応のサービス(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)の利用意向



「1つの事業所で2つ以上のサービス（小規模多機能型居宅介護と訪問看護）が一体的に提供されるサービス」（複合型サービス）の利用については、一般高齢者では『利用したい』が35.0%、『わからない』が43.0%となっています。要介護認定者では、『利用したい』が35.0%、『わからない』が41.7%となっています。

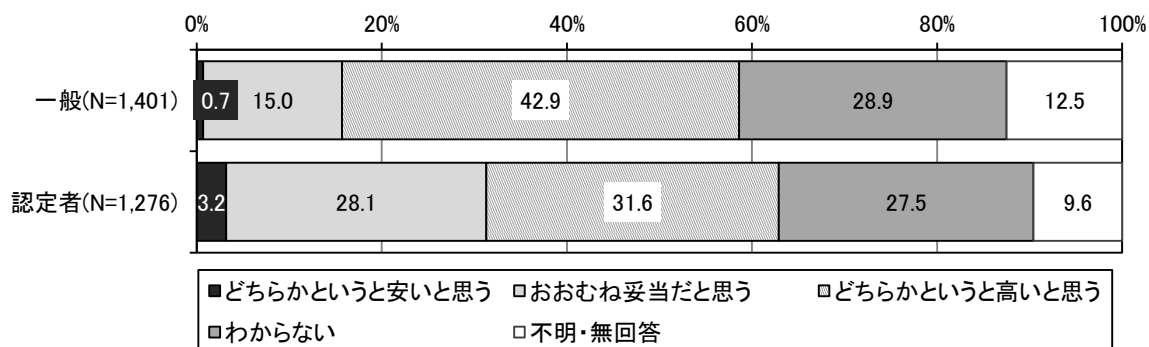
■ 1つの事業所で2つ以上のサービス(小規模多機能型居宅介護と訪問看護)が一体的に提供されるサービス(複合型サービス)の利用意向



⑥ 介護保険料

現在の介護保険料についてみると、一般高齢者、要介護認定者ともに「どちらかという高いと思う」がそれぞれ42.9%、31.6%と最も高くなっています。次いで、一般高齢者では「わからない」が28.9%、要介護認定者では「おおむね妥当だと思う」が28.1%となっています。

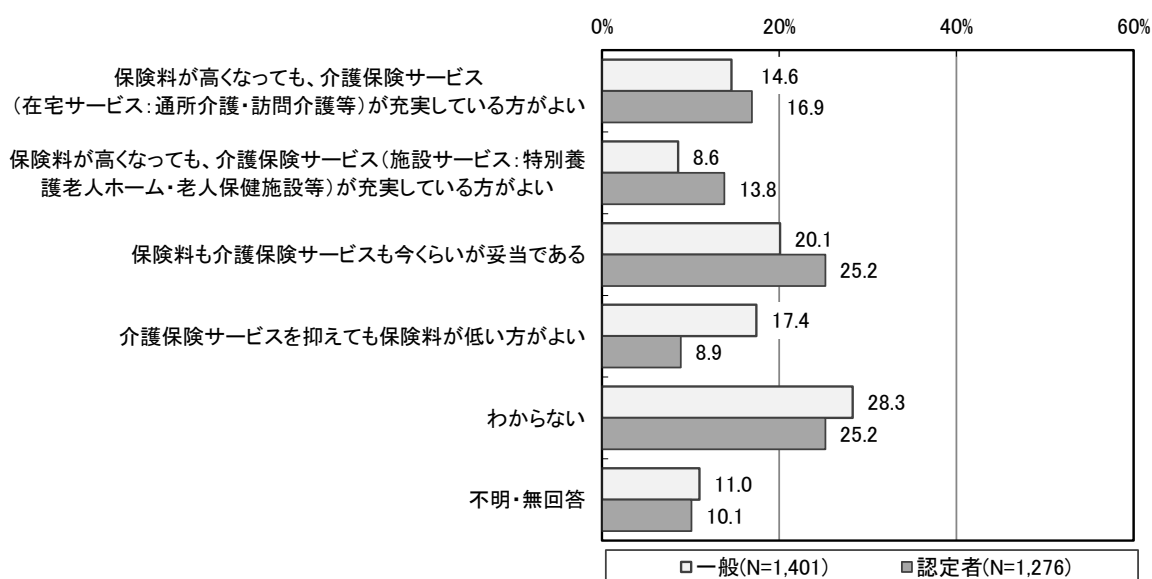
■ 介護保険料について



今後の介護保険のあり方についてみると、一般高齢者では「わからない」が28.3%と最も高く、次いで「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」が20.1%、「介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい」が17.4%となっています。

要介護認定者では、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」、「わからない」がともに25.2%と最も高く、次いで「保険料が高くなっても、介護保険サービス（在宅サービス：通所介護・訪問介護等）が充実している方がよい」が16.9%となっています。

■ 今後の介護保険のあり方



2 介護保険運営協議会名簿

今治市介護保険運営協議会委員名簿

区 分	役 職 名	氏 名	備 考
学識経験者	今治明德短期大学教授	眞 鍋 誠 子	
	今治市老人クラブ連合会長	新 居 田 利 忠	
	今治市連合婦人会長	川 本 登 倭 子	
	今治市連合自治会監事	田 坂 勝 彦	
医療・保健・福祉 関係者	今治市医師会 副会長	仁 志 川 高 雄	
	今治市歯科医師会代表理事	國 延 明 正	
	波方中央病院院長	臼 谷 直 純	
	白石医院院長	白 石 安 比 古	
	今治市社会福祉協議会長	片 上 修 二 郎	
	今治市民生児童委員協議会長	丹 下 甫 澄	
介護サービス 事業者	ケアマネジャー	白 石 和 美	
	今治市老人福祉施設連絡協議会会長	宇 山 裕 二	
	愛媛県老人保健施設協議会事務局長	新 田 勇 人	
	ホームヘルパー	杉 山 賀 子	
	地域密着型サービス事業所施設長	原 文 香	
行政関係者	愛媛県東予地方局健康福祉環境部 今治支局今治保健所保健統括監	富 田 直 明	

3 介護保険条例（抜粋）

○今治市介護保険条例（抜粋）

平成 17 年 1 月 16 日

条例第 155 号

（運営協議会）

第 7 条 介護保険及び高齢者の保健福祉に関する施策の円滑かつ適切な実施に資するため、今治市介護保険運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

（所掌事務）

第 8 条 運営協議会は、次に掲げる事項について調査審議し、市長に提言するものとする。

- （1） 介護保険事業計画、高齢者保健計画及び高齢者福祉計画の策定、見直し及び進ちょく状況に関する事項
- （2） 苦情、問題点の処理等、介護保険事業の円滑な運営に関する事項
- （3） 前 2 号に掲げるもののほか、高齢者の保健福祉に関する事項

（組織）

第 9 条 運営協議会は、25 人以内の委員で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- （1） 学識経験者
- （2） 医療・保健・福祉関係者
- （3） 介護サービス事業者
- （4） 行政関係者

3 委員の任期は、3 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

（委任）

第 10 条 第 7 条から前条までに定めるもののほか、運営協議会に関し必要な事項は、規則で定める。

4 介護保険運営協議会規則

○今治市介護保険運営協議会規則

平成 17 年 1 月 16 日

規則第 127 号

改正 平成 25 年 9 月 9 日規則第 28 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、今治市介護保険条例（平成 17 年今治市条例第 155 号）第 10 条の規定に基づき、今治市介護保険運営協議会（以下「協議会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に会長及び副会長 1 人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第 3 条 協議会は、必要に応じて会長が招集する。

(関係者の出席)

第 4 条 会長が必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第 5 条 会長が必要があると認めるときは、協議会に専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会の委員は、協議会委員のうちから会長が協議会に諮って指名する。
- 3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員のうちから互選する。
- 4 専門部会の部会長は、会務を掌理し、経過及び結果を協議会に報告する。

(事務局)

第 6 条 協議会の事務局は、高齢介護課に置く。

(委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成 17 年 1 月 16 日から施行する。

附 則（平成 25 年 9 月 9 日規則第 28 号）

この規則は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

5 開催経緯

■ 今治市介護保険運営協議会開催経緯

日時	内容
平成 26 年 6 月 26 日	平成 26 年度第 1 回介護保険運営協議会 ・ 第 6 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の概要について ・ 計画策定のスケジュールについて
平成 26 年 9 月 11 日	平成 26 年度第 2 回介護保険運営協議会 ・ 高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果について ・ 今治市の介護保険事業の現状について
平成 26 年 11 月 27 日	平成 26 年度第 3 回介護保険運営協議会 ・ 人口推計・要介護（支援）認定者の推計結果について ・ 施設整備方針について ・ 第 6 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の骨子（案）について
平成 26 年 12 月 25 日	平成 26 年度第 4 回介護保険運営協議会 ・ 第 6 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の素案について
平成 27 年 3 月 5 日	平成 26 年度第 5 回介護保険運営協議会 ・ 第 6 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画案の提示について

6 用語解説

■ 福祉サービス（※については、要介護認定で非該当に相当する方のみを対象としたサービス）

ことぶき大学	生きがいをづくりを目的として、60 歳以上の高齢者を対象に、月 1 回程度、外部専門講師を招いて講義を開催します
シルバー生きがい農園事業	生きがいをづくりを目的として、一区画当たり約 30 平方メートルの農地を無料で利用できます
公衆浴場の割引利用券	65 歳以上の高齢者に対して、公衆浴場を利用できる割引券を交付します
あんま・マッサージ利用助成券	70 歳以上の高齢者に対して、指定事業所であんま・マッサージを利用する費用の一部を助成します
老人福祉車購入補助	歩行時に支えを必要とする高齢者に対して、老人福祉車（手押し車・シルバーカー）の購入費を補助します
徘徊高齢者位置情報探索サービス利用費補助	認知症で徘徊の症状がある高齢者を在宅で介護している方に対して、GPS を利用した位置情報探索サービスを導入する際の初期経費を補助します
ふれあいホームヘルプサービス（※）	週 1 回 1 時間、ホームヘルパーが自宅を訪問し、家事援助・指導や日常生活に関する助言などを行います
いきいきデイサービス（※）	週 1 回程度、デイサービスセンターなどで入浴・昼食・健康チェックなどが受けられます
あんしんお泊まりサービス（※）	家族が冠婚葬祭などの理由で一時的に介護ができない場合に、老人ホームなどに短期入所できます
配食サービス	食事の調理などが困難なひとり暮らし高齢者などに、食事を届け、安否確認を行います
電話による安否確認・福祉電話貸与	ひとり暮らしなどで安否確認の必要な高齢者に対し、定期的に電話をかけて安否確認や健康相談を行います
緊急通報装置の貸与	虚弱なひとり暮らし等の高齢者の自宅に、緊急時にボタンひとつで連絡可能な通報機器を無料で貸与します
介護激励金の支給	要介護 3 以上の高齢者を在宅で常時介護している方に対して、激励金を支給します
介護用品の支給	寝たきり又は重度の認知症高齢者（要介護 4、5）などを在宅で常時介護している方に対して、紙おむつなどの介護用品を支給します

■ 在宅サービスの内容

訪問介護 (ホームヘルプサービス)	ホームヘルパーが家庭を訪問し、入浴、排せつ、食事の介助などの介護や、調理、洗濯、炊事などの必要な日常生活の世話が受けられます
訪問入浴介護	介護士と看護師が移動入浴車などで家庭を訪問し、入浴の介助を行い、身体の清潔保持と心身機能の維持を図ります
訪問看護	主治医の指示により看護師などが家庭を訪問し、療養上の世話や必要な診療の補助を行い、心身機能の維持回復を図ります
訪問リハビリテーション	主治医の指示により理学療法士や作業療法士が家庭を訪問して、必要なりハビリテーションを行い、心身機能の維持回復を図ります
居宅療養管理指導	医師・歯科医師・薬剤師などが通院困難な利用者の家庭を訪問し、療養上の管理や指導が受けられます
通所介護 (デイサービス)	デイサービスセンターなどに通い、入浴、排せつ、食事などの介護や生活面での相談やアドバイス、機能訓練及びレクリエーションなどが受けられます
通所リハビリテーション (デイケア)	老人保健施設や病院などに通い、理学療法士や作業療法士が必要なりハビリテーションを行い、心身機能の維持回復を図ります
短期入所生活介護 (ショートステイ)	特別養護老人ホームなどに短期間（連続 30 日まで）一時的に入所しながら、入浴、排せつ、食事などの介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練が受けられます
短期入所療養介護 (ショートステイ)	介護老人保健施設などに短期間（連続 30 日まで）一時的に入所しながら、看護、医学的な管理のもと、介護、機能訓練その他必要な医療や日常生活上の世話が受けられます
福祉用具の貸与	車いすや特殊寝台などの必要な福祉用具をレンタルで利用して、日常生活の自立と介護者の負担軽減を図ります
福祉用具の購入費の支給	腰掛便座、自動排せつ処理装置の変更可能部分、入浴補助用具、簡易浴槽、移動用リフトのつり具の部分などを購入した場合に、購入費（1 年度当たり 10 万円を限度とする）の 9 割が支給されます
住宅改修費の支給	手すりの取り付け、段差の解消などの小規模の住宅改修を行った場合、対象工事費（20 万円を限度）の 9 割が支給されます
特定施設入居者生活介護	ケアハウスや有料老人ホームなどに入居して、入浴、排せつ、食事などの介護や機能訓練など、日常生活上の支援や介護が受けられます

■ 施設サービスの内容

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常時介護が必要で、居宅での生活が困難な方が入所する施設で、日常生活上の世話や機能訓練、健康管理などを行う入所定員が 30 人以上の特別養護老人ホームです
介護老人保健施設	病状が安定し、リハビリに重点をおいたケアが必要な方が在宅復帰を目指して入所する施設で、看護、医学管理下での介護、機能訓練などの必要な医療が受けられます
介護療養型医療施設	急性期の治療を終え、長期の治療を必要とする方が入所する医療機関の病床で、療養上の管理、看護、医学的管理下での介護の世話などが受けられます